

# 日本消防



- 第19回全国女性消防操法大会に優勝して  
～岐阜県羽島市女性消防隊～
- 防火ポスター及び防火・防災作文コンクール最優秀賞表彰式を開催

- 絵 東京消防出初式 H22.1.6 於 東京ビックサイト  
 蒲都市出初式 H22.1.10 於 蒲郡競艇場  
 平成21年度消防団多機能型車両交付式 H21.12.18 於 広島県呉市  
 防火ポスター及び防火・防災作文コンクール最優秀賞表彰式を開催 H21.12.24 於 日本消防会館

謹賀新年

- 新春のご挨拶……………財団法人 日本消防協会会長 片山 虎之助 ……2  
 年頭の辞……………総務大臣 原口 一博 ……3  
 年頭の辞……………消防庁長官 河野 栄 ……4  
 年頭の辞……………全国消防長会会長 新井 雄治 ……5  
 防火ポスター及び防火・防災作文コンクール最優秀賞表彰式を開催  
 ……………生活協同組合 全日本消防人共済会 ……6  
 平成21年秋の叙勲並びに褒章伝達式 ……………総務省消防庁 総務課 ……7  
 受賞者名簿（叙勲・褒章）……………総務省消防庁 総務課 ……8  
 平成21年版消防白書概要……………総務省消防庁 総務課 ……22

- 東西南北（岩手県）「南部火消し」の歴史と伝統を受け継ぐ消防団  
 ……………盛岡市消防団 団長 西村 紀昭 ……28  
 東西南北（北海道）「財政再建団体における消防団の責務」  
 ……………夕張市消防団 団長 小西 真三 ……30  
 東西南北（秋田県）「地域のための消防団でありたい」  
 ……………横手市大雄消防団 団長 佐々木 一義 ……32  
 シンフォニー（鹿児島県）「チャレンジ」……………湧水町消防団 団員 橋之口 理香 ……34  
 シンフォニー（岡山県）「みんなに親しまれる女性消防団員として」  
 ……………真庭市消防団 湯原方面隊 班長 長須 久美子 ……36  
 第19回全国女性消防操法大会に優勝して ……岐阜県羽島市女性消防隊 隊長 渡辺 五月 ……38  
 防災一人語りで入団促進……………矢口消防団（東京都大田区） 団長 若林 登 ……42  
 平成21年度消防防災機器の開発・改良、消防防災科学論文及び原因調査事例報告に関する  
 消防庁長官表彰……………総務省消防庁 消防研究センター ……43  
 消防団の広場（高知県）「消防団員を確保せよ!!」……………香南市野市消防団 団長 宮本 慶澄 ……45  
 うちの名物団員…………… ……46

2月の日本消防協会関係行事  
 編集後記

表紙写真説明

紺屋町番屋

紺屋町番屋は大正2年に消防番屋として建てられ、屋根上の六角形の望楼が特徴的で、木造2階建、寄棟、金属板葺きの建物で外壁は下見板張り、窓は縦長の開き扉が採用されています。平成17年に近隣に消防コミュニティセンターが建設されるまで、92年にわたって盛岡市消防団第5分団の屯所として使用されてきました。現在では、消防施設の変遷を知る貴重な建物として、昭和52年に盛岡市の保存建造物指定を受けています。 岩手県 盛岡市

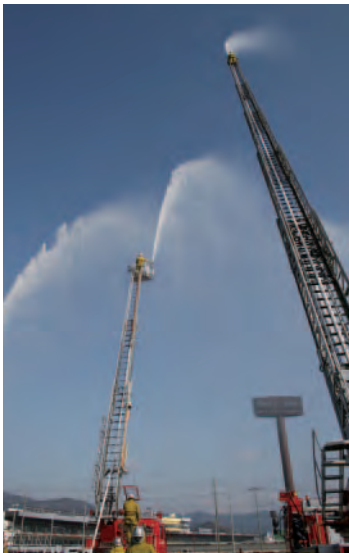
# 東京消防出初式

平成22年1月6日（水） 東京ビックサイト



# 蒲郡市出初式

平成22年1月10日（日） 蒲郡競艇場





# 平成21年度消防団多機能型車両交付式

平成21年12月18日（金） 於 広島県呉市



# 防火ポスター及び防火・防災作文コンクール 最優秀賞表彰式を開催

平成21年12月24日（木） 日本消防会館





# 謹 賀 新 年

平成二十二年一月

財団法人 日本消防協会

# 新春のご挨拶

財団法人 日本消防協会会長 片山 虎之助



平成22年の輝かしい新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

全国の消防団員、消防職員の皆様が、常日頃、地域の安心・安全を守るため、日夜献身的なご尽力をされていることに対し、心から敬意を表し、深く感謝申し上げます。

これまで星霜を重ねた先人のご努力の積み重ねにより、我が国の消防は着実な発展を遂げ、今や地域住民に最も身近な防災機関として、国民から多大の信頼と期待を寄せられています。

しかし、今日、災害や事故は複雑多様化の傾向を強めています。住宅等における火災は、依然としてあとを絶たずこれにより多くの方が亡くなっています。また、台風、集中豪雨による風水害も相次ぎ、特に昨年は、中国・近畿地方、九州北部の集中豪雨により大きな被害が生じました。海外ではインドネシア・スマトラ島沖で大地震が発生しましたが、国内の大規模地震の発生も懸念されており、国民保護法に基づく対応も含め、消防の責務は益々重大なものになっております。

その中で、とりわけ消防団は、地域防災の中核として大きな期待を寄せられています。これからの防災体制の強化のためには、常備消防の充実はもとより、消防団自身の対応力の一層の強化を図るとともに消防団が要となって、婦人（女性）防火クラブ、企業、各種団体、さらには自主防災組織などを含む一般住民の皆さんも参加する総合的な地域防災力を充実させる必要があります。しかしながら依然として消防団員の減少傾向が続くなど、憂慮すべき状況もあります。

そのため日本消防協会では、総務省消防庁、全国の消防団とともに団員の増員確保、さらには地域防災力の向上に努力を重ねており、特に昨年は、メンバーが将来の地域防災の担い手となることが期待されます少年消防クラブの活動を促進する趣旨で、チェコで開催された青少年消防オリンピックに、日本から初めて四つの少年消防クラブ代表を派遣しました。その成果をこれからの青少年消防組織の活性化にいかしたいと考えております。

また、平成19年度から救助資機材等を組み込んだ消防団多機能型車両を交付していますが、この事業が先鞭となって、国においても平成21年度の補正予算で全国に三百台を超える同様の車両を交付することとなりました。これらの資機材が万が一の時に十分に活用されますよう訓練用DVDを配布し、訓練の充実を図ってまいります。

また、国際交流の面では、中国の消防協会とは25年に渡る交流を続けてきましたが、このほかに新たに韓国の消防安全協会とも交流することとし、昨年11月に日韓消防友好協定を締結しました。併せて中国消防協会も含めた三者協議を開催し、日中韓で消防交流を一層推進することを合意しました。消防の分野における三カ国の交流は、それぞれの国の消防の発展はもちろん、災害が多発するアジア地域の安全向上にも意義があると考えられます。

その他公益法人制度改革などにも適切に対処しつつ、引き続き関係機関、団体との協力連携のもと、日本消防の更なる発展のため、全力を傾けてまいりたいと考えております。関係者のご支援助ご協力をお願いする次第であります。

最後に、全国の消防関係の皆様がますますご壮健で、地域の安心安全と郷土の発展のため、一層のご活躍をいただきますよう衷心よりお祈りして年頭のごあいさつといたします。

平成22年元日

# 年 頭 の 辞

総務大臣 原口 一博



平成22年の新春を迎え、全国の消防防災関係者の皆様に謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

日ごろ、私たちが安心して生活できるのは、皆様が、火災や地震など各種の災害から住民や地域を守るために、日々訓練を行い、火災予防・啓発活動に励み、昼夜を問わず現場で迅速に活動いただいているからです。皆様の御尽力に対し、改めて深く感謝申し上げるとともに心から敬意を表します。

我が国の消防は、皆様の日々の鍛錬・努力の積み重ねにより、私たちが安心して暮らすためにはなくてはならない存在となっています。また、国内だけではなく、国際貢献にも重要な役割を果たしており、特に昨年インドネシア西スマトラ州パダン沖地震災害において、我が国の国際消防救助隊は他国の救援隊に先駆けていち早く被災地に到着し、困難の中、懸命の捜索活動を行ったことは、海外においても高い評価を得ています。痛ましい大災害の被害を少しでも軽減するため国際的に活躍する我が国の消防を、心から誇らしく思います。

しかしながら、近年、毎年のように大規模な地震や集中豪雨が発生し、各地に大きな被害をもたらしています。また、救急搬送における受入医療機関の選定困難事案の発生や、新たな形態の小規模施設や雑居ビル等の火災を踏まえた安全対策の徹底など、社会環境の変化に伴う様々な課題も発生してきています。

このような状況の中、国民の安心・安全を確保するためには、国や地方公共団体だけではなく、国民一人ひとりが安全意識をもって連携協力する、総合的な消防防災対策を積極的に展開していくことが必要です。また、社会そのものが変化し、様々なニーズに合わせた素早い対応が求められており、地域防災の要である消防団の役割は極めて重要と考えています。

私は、緊急消防援助隊や消防団など消防・防災体制の充実強化に努めるとともに、円滑な救急搬送・受入体制を構築するため、消防と医療の連携を推進し、国民の皆様が安心して暮らせる地域づくりに全力を挙げてまいります。

消防防災関係者の皆様におかれましては、引き続き、危機管理体制の充実強化を図り、地域防災力の維持向上に積極的に取り組まれますようお願いするとともに、今後とも地域の皆様の期待と信頼に応えていくため、より一層の御尽力をいただきますようお願いいたします。

今年一年、皆様が元気に、安心して暮らせる年であることを祈念しまして、年頭の御挨拶とさせていただきます。



# 年 頭 の 辞

消防庁長官 河野 栄



平成22年の新春を迎えるに当たり、全国の消防関係者の皆様に謹んで年頭のご挨拶を申し上げますとともに、日頃のご尽力に対し心から敬意を表し、深く感謝申し上げます。

我が国の消防は、関係各位のたゆまぬ努力の積み重ねにより、国民の安心・安全の確保に大きな役割を果たすとともに、昨年9月のインドネシア西スマトラ州パダン沖地震災害での国際消防救助隊の活躍などにより、海外において高い評価を得ております。

しかしながら、昨年は、4月の北朝鮮によるミサイル発射事案の発生、新型インフルエンザ（H1N1型）の感染拡大、7月から8月にかけては中国・九州北部豪雨や台風第9号、駿河湾を震源とする地震等のさまざまな災害が相次いで発生し、各地に大きな被害をもたらしました。

また、3月の群馬県渋川市での老人ホーム火災や大阪市此花区パチンコ店火災、11月の浜松市の麻雀店火災、杉並区高円寺での火災など多くの死傷者を伴った火災はいまなお記憶に新しいところです。

このように、相次いで発生する自然災害や地域社会の変化による災害の複雑多様化、新型インフルエンザへの対応など、消防防災行政を取り巻く状況は、大きく変化しており、国民の安心・安全を維持向上させていくためには、総合的な消防防災行政を積極的に推進していく必要があります。

このため、消防の広域化や緊急消防援助隊の充実強化など消防組織における体制の強化とともに、医療機関との連携を一層推進する必要があります。また、併せて一般家庭における住宅用火災警報器の設置の推進や民間事業所における自衛消防力の確保、消防団や自主防災組織などの地域における総合的な防災力の強化にも積極的に取り組む必要があります。

そのため、昨年4月には、傷病者の搬送及び受入れの迅速かつ適切な実施を図るため、救急搬送・受入れに関する実施基準について協議等を行うための協議会の設置等を内容とする消防法の一部改正を行いました。また、平成21年度補正予算により、緊急消防援助隊の装備や救急体制の充実強化、住宅用火災警報器や消防団救助資機材搭載型車両の配備等の事業を推進しています。

皆様方におかれましては、我が国の消防防災・危機管理体制の更なる発展と、国民が安心して暮らせる安全な地域づくりのために、より一層の御支援と御協力をいただきますようお願い申し上げます。

皆様方のますますのご健勝とご発展を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

# 年 頭 の 辞

全国消防長会会長 新井 雄治



平成22年の輝かしい新春を迎え、全国の消防関係者の皆様に謹んで新年のお慶びを申し上げます。

消防団員の皆様方におかれましては、各種災害から住民の生命、身体、財産を守るため、平素の訓練や災害対応はもとより、台風等による風水害や震災等の大規模災害時には、関係機関等と連携し、災害活動に従事されるなど、昼夜を分かたず住民が安心して生活できる地域づくりに全力を挙げ、多大な貢献をされております。

ここに改めて、深い敬意と感謝の意を表します。

我が国の消防は、幾多の先人と皆様をはじめとする関係各位のご尽力により、地域に密着した防災機関として、着実に発展を遂げてまいりました。

その活動は国内に留まらず、海外で発生した大規模な地震災害等に際しても国際消防救助隊として、人命救助活動を実施するなど、国際的にも高い評価を得ております。

しかしながら、住民の安全を脅かす災害は後を絶たず、昨年は、7月の中国・九州北部豪雨をはじめ、局地的な集中豪雨等による甚大な被害が各地で発生しました。

さらに、昨年8月には駿河湾を震源とする震度6弱の地震が発生するなど、依然として大規模地震の発生が危惧される中、常備消防はもとより、地域防災の要である消防団に寄せられる住民の期待は、ますます大きくなっております。

このような状況の中、全国消防長会では、「消防の広域化への対応」「消防救急無線及び指令業務の広域化・共同化」「救急搬送受入体制の確保及び救急業務高度化への対応」「広域消防応援体制の充実・強化」「防火対象物等及び危険物施設の防火安全対策」「地域総合防災力の充実」「安全管理対策の更なる推進」の7項目を重点施策とし、各種事業を推進するとともに、地域の防災行動力の更なる向上を図るため、消防団員の加入促進に係る施策を関係機関と連携しながら展開してまいります。

「自らの地域は自ら守る」という郷土愛の精神からなる消防団員の存在は、地域の安心・安全のために、今後ますます重要性を増すとともに、その活躍が大いに期待されているところであります。

全国消防長会といたしましても、今後とも皆様方をはじめ、関係機関との連携をより緊密にし、安全で安心な地域社会の実現に向けて、全力を挙げて取り組んでまいります。

皆様におかれましても、地域の安全確保のため、引き続き、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆様方が地域の防災リーダーとしてますますご活躍されますとともに、ご健勝、ご多幸を心から祈念いたしまして、年頭のご挨拶といたします。

# 防火ポスター及び防火・防災作文コンクール 最優秀賞表彰式を開催

生活協同組合 全日本消防人共済会

生活協同組合全日本消防人共済会（片山虎之助会長）は、12月24日（木）日本消防会館において、平成21年度の防火ポスター及び防火・防災に関する作文コンクールの

最優秀賞の表彰式を行いました。

片山会長から、それぞれに表彰状と記念品が受賞者に、所属の学校には記念品が贈呈されました。



防火ポスターコンクール最優秀賞

岐阜県大垣市立西部中学校 3年 石井 清美さん



防火・防災作文コンクール最優秀賞

香川県国立大学法人香川大学教育学部附属高松中学校 2年 西川 倫弘さん



# 平成21年秋の叙勲並びに褒章伝達式

総務省消防庁 総務課

平成21年秋の叙勲伝達式（平成21年11月11日（水）、ニッショーホール）、第13回危険業務従事者叙勲伝達式（平成21年11月6日（金）、日比谷公会堂）並びに平成21年秋の褒章伝達式（平成21年11月16日（月）、ルポール麹町「ロイヤルクリスタル」）が、それぞれ盛大に挙行されました。なお、このうち、秋の叙勲及び褒章伝達式においては、原口一博総務大臣より伝達が行われました。

叙勲を受章された方々は、永年にわたり国民の生命、身体及び財産を火災等から防ぎよするとともに、消防力の強化、充実に尽力され、消防の発展及び社会公共の福祉の増進に寄与された消防関係者の方々です。また、褒章を受章された方々は、永年にわたり消防防災活動及び消防関係業界の業務に精励し、消防の発展に大きく寄与された方々、並びに災害現場において自己の危険を顧みず人命救助に尽力した方々です。それぞれの受章者数は、秋の叙勲585名、第13回危険業務従事者叙勲615名及び秋の褒章83名です。

伝達式終了後、受章者及び配偶者は皇居において、天皇陛下に拝謁し、お言葉を賜りました。

なお、消防関係者の勲章・褒章別受章者数は次のとおりです。

平成21年秋の叙勲	
瑞宝中綬章	1名
瑞宝小綬章	35名
旭日双光章	2名
瑞宝双光章	99名
瑞宝単光章	448名

第13回危険業務従事者叙勲	
瑞宝双光章	520名
瑞宝単光章	95名

平成21年秋の褒章	
紅 綬	9名
黄 綬	5名
藍 綬	69名



秋の叙勲伝達式において  
原口総務大臣より代表受領される大井久幸氏



危険業務従事者叙勲伝達式において  
代表受領される池本清敏氏



秋の褒章伝達式において  
原口総務大臣より代表受領される堀知靖氏

# 平成21年秋の叙勲受章者名簿（消防関係）

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）
瑞 小	北 海 道	元 函館市 消防正監	かね た 田 健 治 (77)	瑞 単	北 海 道	元 池北三町行政事務 組合足寄消防団 団長	い ち 十 嵐 さ だ み (76)
瑞 双	北 海 道	元 網走地区消防組合 常呂消防団 団長	あ 阿 部 貞 義 (81)	瑞 単	北 海 道	元 帯広市大正消防団 分団長	い ち 十 嵐 ひ だ し 宏 (76)
瑞 双	北 海 道	元 斜里地区消防組合 斜里消防団 副団長	い 石 川 邦 男 (72)	瑞 単	北 海 道	元 砂川地区広域消防 組合砂川消防団 分団長	い 石 井 ゆ 穂 (77)
瑞 双	北 海 道	元 滝川地区広域消防 事務組合江部乙消防 団長	い 伊 藤 た 保 (84)	瑞 単	北 海 道	元 釧路東部消防組合 釧路消防団 副団長	い 石 塚 宏 吉 (75)
瑞 双	北 海 道	元 石狩北部地区消防 事務組合当別消防 団長	かわ 河 村 和 彦 (77)	瑞 単	北 海 道	元 西胆振消防組合大 滝消防団 副団長	いた 板 狩 弘 治 (73)
瑞 双	北 海 道	元 羊蹄山ろく消防組 合真狩消防団 団長	の 野 々 村 勲 (70)	瑞 単	北 海 道	元 釧路北部消防事務 組合標茶消防団 分団長	い 伊 藤 し ん 太 郎 (78)
瑞 双	北 海 道	元 南宗谷消防組合歌 登消防団 団長	なが 長 谷 川 英 利 (77)	瑞 単	北 海 道	元 紋別地区消防組合 滝上消防団 副団長	い 糸 賀 衛 衛 (75)
瑞 双	北 海 道	元 根室北部消防事務 組合羅臼消防団 団長	もり 森 慎 吾 (71)	瑞 単	北 海 道	元 北後志消防組合余 市消防団 副団長	お 大 木 か ず 一 豊 (76)
瑞 双	北 海 道	元 滝川地区広域消防 事務組合新十津川 消防団 団長	やま 山 香 靖 時 (71)	瑞 単	北 海 道	元 胆振東部消防組合 厚真消防団 団長	お 大 西 た け 武 雄 (74)
瑞 双	北 海 道	元 檜山広域行政組合 瀬棚町消防団 団長	よう 用 名 要 一 (76)	瑞 単	北 海 道	元 日高中部消防組合 新冠消防団 副分団長	お 小 笠 原 ゆ う 三 郎 (78)
瑞 単	北 海 道	元 札幌市南消防団 副団長	あ 安 藤 晃 一 (72)	瑞 単	北 海 道	元 南宗谷消防組合歌 登消防団 副団長	かね 金 子 勝 美 (73)
瑞 単	北 海 道	元 留萌消防組合小平 消防団 分団長	い い 飯 田 信 昭 (71)	瑞 単	北 海 道	元 岩内・寿都地方消 防組合寿都消防団 分団長	か 亀 谷 じ 二 郎 (79)
瑞 単	北 海 道	元 東十勝消防事務組 合浦幌消防団 団長	き 木 谷 敏 敏 (73)	瑞 単	北 海 道	元 白老町消防団 分団長	ふる 古 俣 行 雄 (73)
瑞 単	北 海 道	元 函館市消防団 副団長	こ 小 林 鋭 三 (72)	瑞 単	北 海 道	元 札幌市豊平消防団 団長	やま 山 上 桂 一 (72)
瑞 単	北 海 道	元 岩見沢地区消防事 務組合月形消防団 副分団長	さ 佐 々 木 恵 三 (75)	瑞 単	北 海 道	元 遠軽地区広域組合 白滝村消防団 副団長	やま 山 崎 三 男 (78)
瑞 単	北 海 道	元 南十勝消防事務組 合更別消防団 副団長	さ 佐 藤 功 (71)	瑞 単	北 海 道	元 南空知消防組合南 幌消防団 副団長	やま 山 本 徹 雄 (75)
瑞 単	北 海 道	元 旭川市消防団 分団長	お 田 中 稲 穂 (75)	瑞 双	青 森 県	元 青森地域広域消防 事務組合消防正監	あ 亀 元 昌 信 (73)
瑞 単	北 海 道	元 日高東部消防組合 えりも町消防団 分団長	た 田 中 壽 男 (76)	瑞 双	青 森 県	元 外ヶ浜町三厩消防 団 団長	あ 鱈 崎 節 人 (69)
瑞 単	北 海 道	元 檜山広域行政組合 北檜山町消防団 副団長	な 中 井 正 男 (70)	瑞 双	青 森 県	元 板柳町消防団 団長	こ 今 正 治 (73)
瑞 単	北 海 道	元 上川中部消防組合 愛別消防団 分団長	な 中 井 光 夫 (76)	瑞 単	青 森 県	元 平川市平賀消防団 副団長	い 一 戸 芳 榮 (74)
瑞 単	北 海 道	元 士別地方消防事務 組合剱淵町消防団 団長	な 中 林 英 夫 (77)	瑞 単	青 森 県	元 柏村消防団 団長	あ 葛 西 林 平 (70)
瑞 単	北 海 道	元 上川中部消防組合 当麻消防団 副団長	にし 西 畑 光 男 (75)	瑞 単	青 森 県	元 百石町消防団 副団長	か 川 口 秀 男 (70)
瑞 単	北 海 道	元 小樽市消防団 分団長	は 林 た 保 (74)	瑞 単	青 森 県	元 名川町消防団 副団長	か 川 村 兼 男 (74)
瑞 単	北 海 道	元 南渡島消防事務組 合上磯消防団 分団長	ひ 平 田 精 一 (76)	瑞 単	青 森 県	元 木造町消防団 分団長	さ 佐 々 木 し げ 重 明 (77)
瑞 単	北 海 道	元 旭川市消防団 副団長	ひ 平 田 勉 (74)	瑞 単	青 森 県	元 深浦町消防団 分団長	あ 笹 森 た け 武 悦 (73)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	青 森 県	元 稲垣村消防団 副団長	佐 藤 秀 明 (74)	瑞 単	岩 手 県	元 陸前高田市消防団 分団長	黄 川 田 光 男 (80)
瑞 単	青 森 県	元 下田町消防団 副団長	土 取 真 雄 (73)	瑞 単	岩 手 県	元 岩手町消防団 分団長	佐 々 木 健 (77)
瑞 単	青 森 県	元 佐井村消防団 副団長	坪 谷 正 隆 (73)	瑞 単	岩 手 県	元 大槌町消防団 分団長	佐 々 木 正 男 (69)
瑞 単	青 森 県	元 脇野沢村消防団 分団長	橋 本 唯 志 (76)	瑞 単	岩 手 県	元 三陸町消防団 副団長	澤 田 孝 一 (80)
瑞 単	青 森 県	元 浪岡町消防団 団長	間 山 憲 一 (71)	瑞 単	岩 手 県	元 盛岡市消防団 分団長	勝 負 澤 才 助 (76)
瑞 単	青 森 県	元 蟹田町消防団 団長	宮 本 勉 (71)	瑞 単	岩 手 県	元 藤沢町消防団 副分団長	菅 原 彰 (80)
瑞 単	青 森 県	元 大鰐町消防団 副団長	三 浦 園 藏 (72)	瑞 単	岩 手 県	元 矢巾町消防団 分団長	菅 原 興 一 郎 (77)
瑞 双	岩 手 県	元 金ヶ崎町消防団 団長	阿 部 利 美 (72)	瑞 単	岩 手 県	元 花巻市消防団 分団長	高 橋 泰 一 郎 (84)
瑞 単	岩 手 県	元 釜石市消防団 副分団長	岩 鼻 定 一 (75)	瑞 単	岩 手 県	元 湯田町消防団 分団長	高 橋 芳 勝 (71)
瑞 単	岩 手 県	元 江刺市消防団 副分団長	及 川 昭 二 (82)	瑞 単	岩 手 県	元 雫石町消防団 分団長	廣 瀬 秋 郎 (83)
瑞 単	岩 手 県	元 川崎村消防団 副団長	加 賀 美 力 男 (82)	瑞 単	岩 手 県	元 軽米町消防団 副団長	増 尾 勇 雄 (80)
瑞 単	岩 手 県	元 久慈市消防団 分団長	柏 木 弘 (77)	瑞 小	宮 城 県	元 仙台市 消防正監	佐 々 木 壽 衛 (73)
瑞 小	宮 城 県	元 仙台市 消防正監	三 浦 勝 介 (71)	瑞 単	宮 城 県	元 東和町消防団 副団長	主 藤 長 樹 (76)
瑞 双	宮 城 県	元 塩竈市塩竈消防団 団長	渡 邊 昭 二 (82)	瑞 単	宮 城 県	元 亘理町消防団 分団長	末 木 宗 治 (87)
瑞 単	宮 城 県	元 田尻町消防団 分団長	青 木 昭 男 (78)	瑞 単	宮 城 県	元 栗原市消防団 副団長	菅 原 一 一 (71)
瑞 単	宮 城 県	元 牡鹿町消防団 分団長	安 住 新 一 (83)	瑞 単	宮 城 県	元 気仙沼市唐桑消防団 副団長	鈴 木 禮 次 郎 (77)
瑞 単	宮 城 県	元 石巻市石巻消防団 副団長	大 山 輝 夫 (74)	瑞 単	宮 城 県	元 鳴子町消防団 分団長	高 橋 敏 幸 (83)
瑞 単	宮 城 県	元 矢本町消防団 団長	大 原 繁 (70)	瑞 単	宮 城 県	元 川崎町消防団 分団長	丹 野 真 夫 (84)
瑞 単	宮 城 県	元 中田町消防団 副団長	小 野 寺 準 (76)	瑞 単	宮 城 県	元 大河原町消防団 副団長	永 沢 振 (77)
瑞 単	宮 城 県	元 鶯沢町消防団 団長	加 藤 清 悦 (72)	瑞 単	宮 城 県	元 仙台市宮城野消防団 団長	蜂 谷 哲 (75)
瑞 単	宮 城 県	元 丸森町消防団 副団長	加 藤 敏 美 (74)	瑞 単	宮 城 県	元 河北町消防団 副団長	和 野 義 信 (72)
瑞 単	宮 城 県	元 仙台市泉消防団 副団長	楠 庄 太 郎 (78)	瑞 小	秋 田 県	元 大曲仙北広域市町 村圏組合 消防正監	山 崎 敏 彦 (74)
瑞 単	宮 城 県	元 涌谷町消防団 分団長	齋 藤 昭 義 (80)	瑞 双	秋 田 県	元 三種町消防団 団長	石 井 喜 美 彦 (66)
瑞 単	宮 城 県	元 古川市消防団 副団長	佐 々 木 紳 司 (81)	瑞 双	秋 田 県	元 鳥海町消防団 団長	佐 藤 安 夫 (76)
瑞 単	宮 城 県	元 蔵王町消防団 分団長	佐 藤 昭 一 (82)	瑞 双	秋 田 県	元 仁賀保地区消防団 団長	須 藤 一 男 (70)



賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	秋 田 県	元 仁賀保地区消防団 分団長	相 庭 欽 男 (76)	瑞 単	秋 田 県	元 千畑町消防団 分団長	戸 澤 良 清 (75)
瑞 単	秋 田 県	元 羽後町消防団 副団長	阿 部 義 右 衛 門 (75)	瑞 単	秋 田 県	元 大館市消防団 分団長	成 田 久 隆 (77)
瑞 単	秋 田 県	元 大森町消防団 副団長	伊 藤 金 作 (71)	瑞 単	秋 田 県	元 能代市消防団 分団長	野 村 幸 作 (79)
瑞 単	秋 田 県	元 南外村消防団 副分団長	伊 藤 誠 (75)	瑞 単	秋 田 県	元 横手市消防団 分団長	藤 井 喜 一 (76)
瑞 単	秋 田 県	元 小坂町消防団 分団長	小 笠 原 吉 孝 (73)	瑞 単	秋 田 県	元 雄勝町消防団 分団長	町 田 長 右 衛 門 (82)
瑞 単	秋 田 県	元 秋田市消防団 分団長	鎌 田 三 知 雄 (78)	瑞 単	秋 田 県	元 雄勝町消防団 副団長	村 田 覺 治 (74)
瑞 単	秋 田 県	元 能代市消防団 分団長	幸 坂 十 郎 (77)	瑞 双	山 形 県	元 山辺町消防団 団長	佐 藤 光 之 助 (71)
瑞 単	秋 田 県	元 平鹿町消防団 副団長	小 松 田 孝 士 (75)	瑞 双	山 形 県	元 朝日町消防団 団長	柴 田 七 郎 兵 衛 (65)
瑞 単	秋 田 県	元 南外村消防団 副分団長	佐 藤 興 市 (76)	瑞 双	山 形 県	元 八幡町消防団 団長	波 谷 晃 (73)
瑞 単	秋 田 県	元 大館市田代消防団 団長	佐 藤 禮 造 (69)	瑞 単	山 形 県	元 尾花沢市消防団 分団長	大 類 誠 一 (75)
瑞 単	秋 田 県	元 男鹿市消防団 分団長	高 橋 武 (74)	瑞 単	山 形 県	元 酒田市消防団 団長	齋 藤 正 喜 (65)
瑞 単	秋 田 県	元 秋田市消防団 分団長	滝 沢 由 太 郎 (80)	瑞 単	山 形 県	元 村山市消防団 分団長	齋 藤 勇 一 (72)
瑞 単	山 形 県	元 最上町消防団 副団長	高 橋 庄 七 (65)	瑞 単	福 島 県	元 郡山市消防団 副団長	國 分 丞 (79)
瑞 単	山 形 県	元 戸沢村消防団 副団長	富 樫 哲 雄 (69)	瑞 単	福 島 県	元 いわき市消防団 副団長	澤 田 忠 義 (68)
瑞 単	山 形 県	元 大蔵村消防団 分団長	横 山 榮 吉 (67)	瑞 単	福 島 県	元 常葉町消防団 団長	白 岩 啓 吉 (65)
瑞 単	山 形 県	元 小国町消防団 分団長	渡 邊 助 雄 (73)	瑞 単	福 島 県	元 川俣町消防団 副団長	高 野 幸 一 (72)
瑞 小	福 島 県	元 福島市 消防正監	三 浦 弘 (73)	瑞 単	福 島 県	元 桑折町消防団 団長	田 中 忠 治 郎 (73)
瑞 双	福 島 県	元 広野町消防団 団長	猪 狩 晃 一 (65)	瑞 単	福 島 県	元 平田村消防団 団長	生 田 目 穰 (66)
瑞 双	福 島 県	元 湯川村消防団 団長	大 塚 勲 (71)	瑞 単	福 島 県	元 いわき市消防団 副団長	野 口 宏 (69)
瑞 双	福 島 県	元 二本松市消防団 団長	齋 藤 道 雄 (68)	瑞 単	福 島 県	元 只見町消防団 団長	目 黒 紘 (65)
瑞 双	福 島 県	元 浪江町消防団 団長	長 岡 新 一 (71)	瑞 単	福 島 県	元 いわき市消防団 分団長	若 松 又 三 郎 (78)
瑞 単	福 島 県	元 川内村消防団 団長	秋 元 美 誉 (66)	瑞 小	茨 城 県	元 稲敷地方広域市町村 圏事務組合 消防正監	海 老 原 淳 二 (70)
瑞 単	福 島 県	元 下郷町消防団 団長	阿 部 公 (65)	瑞 双	茨 城 県	元 旭村消防団 団長	石 崎 一 郎 (77)
瑞 単	福 島 県	元 いわき市消防団 副団長	片 石 洋 一 (69)	瑞 双	茨 城 県	元 古河市古河消防団 団長	海 老 澤 宏 (73)
瑞 単	福 島 県	元 福島市消防団 副団長	加 藤 和 雄 (67)	瑞 双	茨 城 県	元 玉造町消防団 団長	小 貫 實 (78)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	茨 城 県	元 つくば市消防団 副団長	い 飯 つひ せき 行 雄 (73)	瑞 単	栃 木 県	元 栃木市消防団 分団長	しほ た 敏 雄 (82)
瑞 単	茨 城 県	元 常陸太田市消防団 分団長	い 石 かわ まさ 弘 (72)	瑞 単	栃 木 県	元 藤原町消防団 副団長	あき 沼 尾 敏 男 (67)
瑞 単	茨 城 県	元 美野里町消防団 副団長	か い 皆 藤 やすし 泰 (78)	瑞 単	栃 木 県	元 足尾町消防団 分団長	あき 吉 澤 幸 治 (74)
瑞 単	茨 城 県	元 水戸市消防団 副団長	かね かわ ひろ 泰 二 (74)	瑞 小	群 馬 県	元 太田地区消防組合 消防正監	あき 藤 掛 充 正 (73)
瑞 単	茨 城 県	元 笠間市笠間地区消防団 団長	あき 菊 地 まさ 優 (67)	瑞 小	群 馬 県	元 前橋市消防団 消防正監	あき 藤 田 正 夫 (75)
瑞 単	茨 城 県	元 八郷町消防団 副団長	こ み 込 やま かず 一 夫 (82)	瑞 双	群 馬 県	元 嬬恋消防団 団長	あき 山 崎 順 一 (65)
瑞 単	茨 城 県	元 結城市消防団 副団長	あき 齋 藤 ひろ 明 (76)	瑞 単	群 馬 県	元 桐生市消防団 分団長	あき 長 部 勝 兆 (74)
瑞 単	茨 城 県	元 日立市消防団 副団長	あき 鈴 木 甲子 男 (70)	瑞 単	群 馬 県	元 松井田町消防団 分団長	あき 佐 藤 幸 雄 (77)
瑞 単	茨 城 県	元 ひたちなか市消防団 分団長	あき 富 岡 よし 弘 (75)	瑞 単	群 馬 県	元 安中市消防団 団長	あき 中 島 俊 一 (80)
瑞 双	栃 木 県	元 岩舟町消防団 団長	あき 栗 原 しょうじろう 正次郎 (69)	瑞 小	埼 玉 県	元 川口市消防正監	あき 伊 藤 清 二 (75)
瑞 単	栃 木 県	元 宇都宮市消防団 副団長	あき 阿久津 和三郎 (73)	瑞 双	埼 玉 県	元 熊谷地区消防組合 大里消防団 団長	あき 金 井 澄 雄 (71)
瑞 単	栃 木 県	元 益子町消防団 副団長	あき 加 藤 禎 俊 (68)	瑞 単	埼 玉 県	元 桶川市消防団 副団長	あき 秋 山 仁 一 (73)
瑞 単	埼 玉 県	元 八潮市消防団 団長	あき 朝 田 健 一 (68)	瑞 単	千 葉 県	元 松戸市消防団 副団長	あき 齋 藤 均 (66)
瑞 単	埼 玉 県	元 横瀬町消防団 団長	あき 新 井 嘉 一 (65)	瑞 単	千 葉 県	元 岬町消防団 副団長	あき 佐久間 勝 之 (66)
瑞 単	埼 玉 県	元 朝霞市消防団 団長	あき 亀 井 秀 安 (64)	瑞 単	千 葉 県	元 和田町消防団 団長	あき 真 田 晃 男 (68)
瑞 単	埼 玉 県	元 白岡町消防団 団長	あき 小 林 敏 夫 (70)	瑞 単	千 葉 県	元 横芝町消防団 団長	あき 實 川 辰 雄 (72)
瑞 単	埼 玉 県	元 越谷市消防団 副団長	あき 齋 藤 たけ 佑 (73)	瑞 単	千 葉 県	元 鎌ヶ谷市消防団 団長	あき 中 舘 照 男 (67)
瑞 単	埼 玉 県	元 鳩ヶ谷市消防団 団長	あき ず 鈴 木 敏 夫 (69)	瑞 単	千 葉 県	元 富津市消防団 団長	あき 藤 野 一 夫 (66)
瑞 単	埼 玉 県	元 比企広城市町村圏 組合吉見消防団 団長	あき 長 澤 しゅう 一 (64)	瑞 中	東 京 都	元 東京消防庁 消防総監	あき 大 井 久 幸 (70)
瑞 単	埼 玉 県	元 戸田市消防団 団長	あき 萩 原 正 秋 (70)	瑞 小	東 京 都	元 東京消防庁 消防司監	あき 中 澤 喜七郎 (70)
瑞 単	埼 玉 県	元 志木市消防団 副団長	あき 古 市 たけ 俊 (64)	瑞 双	東 京 都	元 東京消防庁 消防正監	あき 飯 田 雅 俊 (73)
瑞 小	千 葉 県	元 千葉市 消防司監	あき 澤 本 恵 一郎 (70)	瑞 双	東 京 都	元 品川消防団 団長	あき 石 川 精 造 (73)
瑞 小	千 葉 県	元 市川市 消防正監	あき 美留町 つとむ 勉 (73)	瑞 双	東 京 都	元 東京消防庁 消防正監	あき 加 藤 利 助 (74)
瑞 単	千 葉 県	元 鴨川市消防団 団長	あき 磯 貝 芳 弘 (65)	瑞 双	東 京 都	元 麻布消防団 団長	あき 後 藤 たけし 猛 (69)
瑞 単	千 葉 県	元 蓮沼村消防団 団長	あき 宇 井 将 國 (67)	瑞 双	東 京 都	元 東京消防庁 消防正監	あき 坂 本 英 胤 (74)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	東 京 都	元 向島消防団 副団長	あお 青 柳 輝 雄 (74)	瑞 単	東 京 都	元 玉川消防団 団長	た 田 中 利 次 (77)
瑞 単	東 京 都	元 小岩消防団 分団長	あ 浅 見 富 昭 (76)	瑞 単	東 京 都	元 日本橋消防団 分団長	た 田 中 康 裕 (81)
瑞 単	東 京 都	元 目黒消防団 分団長	い 石 井 好 (78)	瑞 単	東 京 都	元 千住消防団 副団長	ち 千ヶ崎 敏 夫 (74)
瑞 単	東 京 都	元 神田消防団 副団長	い 市 川 篤 政 (74)	瑞 単	東 京 都	元 城東消防団 分団長	ち 中 村 源次郎 (79)
瑞 単	東 京 都	元 荒川消防団 団長	い 伊 藤 精 亮 (69)	瑞 単	東 京 都	元 板橋消防団 副団長	ふる 古 谷 光 男 (72)
瑞 単	東 京 都	元 臨港消防団 副団長	い 稲 垣 喜 雄 (74)	瑞 単	東 京 都	元 上野消防団 団長	み 水 谷 捷 郎 (73)
瑞 単	東 京 都	元 滝野川消防団 副団長	お 大 出 勝 也 (73)	瑞 単	東 京 都	元 田園調布消防団 副団長	お 山 崎 厚 (77)
瑞 単	東 京 都	元 中野消防団 副団長	よし 吉 岡 一 義 (75)	瑞 単	東 京 都	元 光が丘消防団 団長	よし 吉 田 一 郎 (68)
瑞 単	東 京 都	元 小石川消防団 副団長	か 加 藤 友 計 (75)	瑞 小	神 奈 川 県	元 川崎市 消防正監	や 柳 下 慶 治 (74)
瑞 単	東 京 都	元 麴町消防団 副団長	こ 小 林 國 利 (78)	瑞 小	神 奈 川 県	元 藤沢市 消防正監	や 山 口 正 直 (74)
瑞 単	東 京 都	元 世田谷消防団 副団長	す 鈴 木 芳 男 (74)	瑞 双	神 奈 川 県	元 横浜市西消防団 団長	お 小田原 守 洋 (78)
瑞 単	東 京 都	元 八王子市消防団 副団長	な 田 中 昭 雄 (71)	瑞 双	神 奈 川 県	元 横浜市戸塚消防団 団長	な 金 子 正 治 (77)
瑞 双	神 奈 川 県	元 横浜市鶴見消防団 団長	さ 岸 本 和 好 (75)	瑞 双	新 潟 県	元 佐渡消防事務組合 金井消防団 団長	な 丹 下 房 夫 (80)
瑞 単	神 奈 川 県	元 秦野市消防団 分団長	い 石 井 舞 舞 (70)	瑞 双	新 潟 県	元 豊浦町消防団 団長	の 野 村 貞 直 (74)
瑞 単	神 奈 川 県	元 横浜市瀬谷消防団 団長	お 大 岡 靖 之 (69)	瑞 双	新 潟 県	元 六日町消防団 団長	の 廣 田 幸 雄 (69)
瑞 単	神 奈 川 県	元 寒川町消防団 団長	お 大 野 浩 (68)	瑞 双	新 潟 県	元 中之島町消防団 団長	の 渡 邊 昭 平 (77)
瑞 単	神 奈 川 県	元 山北町消防団 団長	お 岡 部 修 (65)	瑞 単	新 潟 県	元 三島町消防団 団長	あ 青 柳 元 一 (71)
瑞 単	神 奈 川 県	元 川崎市高津消防団 分団長	こ 近 藤 昭 一 (79)	瑞 単	新 潟 県	元 柏崎市消防団 分団長	う 上 野 千代治 (83)
瑞 単	神 奈 川 県	元 横須賀市消防団 副団長	さ い 齋 藤 利 昭 (70)	瑞 単	新 潟 県	元 神林村消防団 団長	お 大 矢 佐 平 (68)
瑞 単	神 奈 川 県	元 横浜市磯子消防団 分団長	さ 佐 藤 正 雄 (80)	瑞 単	新 潟 県	元 新潟市西消防団 副団長	の 笠 井 武 (69)
瑞 単	神 奈 川 県	元 横浜市山手消防団 副団長	な 南 湖 一 男 (79)	瑞 単	新 潟 県	元 十日町地域広域事 務組合川西町消防 団長	こ 小 林 義 幸 (76)
瑞 単	神 奈 川 県	元 平塚市消防団 分団長	み 宮 川 清 (74)	瑞 単	新 潟 県	元 新潟市東消防団 分団長	さ い 齋 藤 恵 淳 (74)
瑞 単	神 奈 川 県	元 横浜市青葉消防団 団長	もり 森 谷 茂 夫 (69)	瑞 単	新 潟 県	元 能生町消防団 分団長	さ の 野 忠 信 (82)
瑞 単	神 奈 川 県	元 横浜市港北消防団 分団長	よ こ 横 溝 一 男 (77)	瑞 単	新 潟 県	元 十日町地域広域事 務組合津南町消防 分団長	し ま 島 田 昭 一 (82)
瑞 小	新 潟 県	元 上越地域消防事務 組合 消防正監	た 田 中 徹 雄 (73)	瑞 単	新 潟 県	元 長岡市消防団 分団長	と 當 糰 忠 作 (82)



賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	新 潟 県	元 津川町消防団 団長	中 川 修 二 (69)	瑞 単	富 山 県	元 宇奈月町消防団 分団長	松 平 昭 一 (80)
瑞 単	新 潟 県	元 中之口村消防団 団長	堀 義 信 (65)	瑞 双	石 川 県	元 穴水町消防団 団長	大 鼓 金 藏 (78)
瑞 単	新 潟 県	元 小千谷市消防団 副団長	和 田 信 之 (67)	瑞 単	石 川 県	元 加賀市消防団 分団長	鹿 野 洋 一 (74)
瑞 双	富 山 県	元 入善町消防団 団長	東 瀬 繁 行 (70)	瑞 単	石 川 県	元 高松町消防団 副団長	柴 田 耕 平 (73)
瑞 双	富 山 県	元 南砺市消防団 副団長	羽 馬 一 夫 (70)	瑞 単	石 川 県	元 金沢市第一消防団 分団長	高 田 尚 重 (75)
瑞 単	富 山 県	元 婦中町消防団 副団長	浅 岡 重 信 (73)	瑞 単	石 川 県	元 金沢市第二消防団 分団長	多 宮 宗 一 (75)
瑞 単	富 山 県	元 滑川市消防団 副団長	石 若 久 義 (76)	瑞 単	石 川 県	元 珠洲市消防団 副団長	村 吉 頼 夫 (73)
瑞 単	富 山 県	元 水見市消防団 分団長	川 口 清 (79)	瑞 単	石 川 県	元 七尾鹿島広城園事 務組合第1消防団 分団長	吉 田 武 (78)
瑞 単	富 山 県	元 黒部市消防団 団長	北 崎 寛 (66)	瑞 小	福 井 県	元 福井地区消防組合 消防正監	塚 本 輝 夫 (70)
瑞 単	富 山 県	元 高岡市南部消防団 副団長	澤 田 雄 三 (71)	瑞 単	福 井 県	元 南越消防組合池田 消防団 副団長	清 水 勇 夫 (80)
瑞 単	富 山 県	元 富山市消防団 副団長	須 波 徳 義 (67)	瑞 単	福 井 県	元 福北消防組合春江 消防団 団長	高 橋 幸 雄 (74)
瑞 単	富 山 県	元 上市町消防団 分団長	道 木 宗 雄 (84)	瑞 単	福 井 県	元 南越消防組合今立 消防団 副団長	田 畑 元 市 (72)
瑞 単	福 井 県	元 大野市消防団 団長	藤 堂 二 男 (68)	瑞 単	長 野 県	元 生坂村消防団 団長	藤 澤 千 万 喜 (69)
瑞 単	福 井 県	元 福井地区消防組合 福井地区消防団 分団長	野 島 信 一 (73)	瑞 単	長 野 県	元 中条村消防団 団長	松 本 義 明 (66)
瑞 単	福 井 県	元 勝山市消防団 分団長	長谷川 忠 夫 (75)	瑞 単	長 野 県	元 大岡村消防団 団長	丸 山 康 明 (61)
瑞 双	山 梨 県	元 甲府地区広域行政 事務組合 消防正監	保 坂 哲 男 (70)	瑞 単	長 野 県	元 坂井村消防団 団長	宮 嶋 昭 治 (67)
瑞 単	山 梨 県	元 武川村消防団 副団長	小 俣 健 夫 (67)	瑞 単	長 野 県	元 坂北村消防団 団長	山 岸 今 朝 登 (62)
瑞 単	山 梨 県	元 秋山村消防団 団長	原 田 弘 一 (67)	瑞 小	岐 阜 県	元 岐阜市 消防正監	市 村 清 和 (73)
瑞 単	山 梨 県	元 甲府市消防団 副団長	松 井 正 男 (76)	瑞 双	岐 阜 県	元 岐阜市柳津消防団 団長	青 木 平 七 郎 (74)
瑞 単	山 梨 県	元 身延町消防団 副団長	望 月 敏 雄 (65)	瑞 双	岐 阜 県	元 多治見市消防団 団長	井 澤 良 彰 (68)
瑞 単	山 梨 県	元 早川町消防団 副団長	轡 英 雄 (71)	瑞 双	岐 阜 県	元 笠松町消防団 団長	樋 口 純 一 郎 (75)
瑞 小	長 野 県	元 長野市 消防正監	小 林 奨 (73)	瑞 双	岐 阜 県	元 河合村消防団 副団長	吉 實 康 男 (72)
瑞 小	長 野 県	元 松本地域広域行政 事務組合 消防正監	三 沢 敦 (74)	瑞 単	岐 阜 県	元 岐阜市中消防団 副団長	大 塚 昌 宏 (73)
瑞 単	長 野 県	元 木祖村消防団 団長	岩 原 力 (68)	瑞 単	岐 阜 県	元 小坂町消防団 団長	大 森 敏 雄 (74)
瑞 単	長 野 県	元 松本市消防団 副団長	原 田 耕 次 (68)	瑞 単	岐 阜 県	元 瑞浪市消防団 団長	工 藤 和 也 (74)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	岐 阜 県	元 川辺町消防団 団長	長 尾 幸 行 (74)	瑞 単	静 岡 県	元 藤枝市消防団 団長	松 浦 副 次 (72)
瑞 単	岐 阜 県	元 荘川村消防団 副団長	橋 本 青 雄 (78)	瑞 単	静 岡 県	元 静岡市清水消防団 分団長	山 梨 誼 久 (69)
瑞 単	岐 阜 県	元 久々野町消防団 副団長	元垣内 実 (71)	瑞 小	愛 知 県	元 岡崎市 消防正監	石 川 守 (75)
瑞 単	岐 阜 県	元 宮村消防団 団長	役 田 昭 一 (80)	瑞 小	愛 知 県	元 名古屋市 消防司監	藤 井 昭 (73)
瑞 小	静 岡 県	元 富士市 消防正監	大久保 重 忠 (71)	瑞 双	愛 知 県	元 八開村消防団 団長	平 野 金 也 (70)
瑞 双	静 岡 県	元 清水市 消防正監	小野田 進 (70)	瑞 双	愛 知 県	元 鳳来町消防団 団長	山 川 忠 (80)
瑞 双	静 岡 県	元 岡部町消防団 団長	櫻 井 正 行 (70)	瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市内山消防団 団長	大 野 晃 稔 (68)
瑞 単	静 岡 県	元 岡部町消防団 副団長	小野田 政 夫 (61)	瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市猪高消防団 団長	加 藤 壽 喜 雄 (72)
瑞 単	静 岡 県	元 御殿場市消防団 団長	高 田 知 (67)	瑞 単	愛 知 県	元 一宮市消防団 副分団長	北 原 定 夫 (72)
瑞 単	静 岡 県	元 小山町消防団 団長	田 代 通 之 (64)	瑞 単	愛 知 県	元 岡崎市男川消防団 団長	柴 田 富 男 (67)
瑞 単	静 岡 県	元 静岡市消防団 分団長	内 藤 悦 郎 (69)	瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市日比津消防団 団長	戸 田 博 (72)
瑞 単	静 岡 県	元 浜松市消防団 副団長	増 井 東 (65)	瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市大坪消防団 団長	成 田 進 (71)
瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市港楽消防団 団長	平 子 富 男 (75)	瑞 小	京 都 府	元 京都市 消防正監	小 川 平 太 郎 (80)
瑞 単	三 重 県	元 白山町消防団 団長	岡 田 隆 (64)	瑞 小	京 都 府	元 京都市 消防正監	福 島 博 (72)
瑞 単	三 重 県	元 亀山市消防団 分団長	鷺 西 繁 一 (70)	瑞 双	京 都 府	元 舞鶴市中消防団 団長	篠 村 義 明 (74)
瑞 単	三 重 県	元 名張市消防団 団長	田 中 耕 一 (70)	瑞 単	京 都 府	元 宇治市消防団 分団長	安 藤 拓 生 (68)
瑞 単	三 重 県	元 桑名市消防団 副分団長	中 島 輝 次 (73)	瑞 単	京 都 府	元 京都市左京消防団 分団長	伊 佐 禮 三 (77)
瑞 単	三 重 県	元 鈴鹿市消防団 副分団長	森 武 文 (81)	瑞 単	京 都 府	元 宇治田原町消防団 団長	谷 村 稔 (64)
瑞 双	滋 賀 県	元 永源寺町消防団 団長	河 居 孝 (70)	瑞 単	京 都 府	元 京都市伏見消防団 分団長	田 村 房 三 郎 (80)
瑞 双	滋 賀 県	元 湖南消防組合 消防正監	田 中 廣 治 (70)	瑞 単	京 都 府	元 京都市下京消防団 分団長	中 村 滋 (76)
瑞 単	滋 賀 県	元 西浅井町消防団 団長	赤 沢 徳 太 郎 (72)	瑞 単	京 都 府	元 京都市東山消防団 分団長	堀 尾 辰 一 郎 (81)
瑞 単	滋 賀 県	元 マキノ町消防団 団長	久保井 五 夫 (65)	瑞 単	京 都 府	元 京都市左京消防団 分団長	森 清 (78)
瑞 単	滋 賀 県	元 大津市消防団 副団長	芝 田 巳 千 夫 (68)	瑞 単	京 都 府	元 京都市下京消防団 分団長	安 福 孝 二 (80)
瑞 単	滋 賀 県	元 能登川町消防団 団長	中 澤 明 (70)	瑞 単	京 都 府	元 京都市左京消防団 分団長	吉 田 和 夫 (77)
瑞 単	滋 賀 県	元 山東町消防団 団長	水 谷 薫 (65)	瑞 小	大 阪 府	元 豊中市 消防正監	下 倉 史 郎 (73)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 小	大 阪 府	元 大阪市 消防正監	吉 田 美 次 (76)	瑞 双	兵 庫 県	元 猪名川町消防団 団長	井 谷 節 男 (76)
瑞 双	大 阪 府	元 河南町消防団 団長	石 田 重 (86)	瑞 双	兵 庫 県	元 加古川市 消防正監	金 川 義 弘 (76)
瑞 双	大 阪 府	元 茨木市 消防正監	中 畑 榮 藏 (75)	瑞 双	兵 庫 県	元 篠山市消防団 団長	坂 下 邦 男 (64)
瑞 単	大 阪 府	元 高槻市消防団 副団長	稲 葉 のぶ 万 (67)	瑞 双	兵 庫 県	元 川西市消防団 団長	古 谷 茂 樹 (71)
瑞 単	大 阪 府	元 八尾市消防団 副団長	小 川 清 義 (72)	瑞 単	兵 庫 県	元 淡路市消防団 団長	井 筒 良 夫 (66)
瑞 単	大 阪 府	元 豊中市消防団 分団長	梶 田 貞 男 (76)	瑞 単	兵 庫 県	元 尼崎市消防団 分団長	梅 村 紀 次 (69)
瑞 単	大 阪 府	元 東大阪市消防団 副団長	川 井 秀 美 (76)	瑞 単	兵 庫 県	元 西宮市消防団 副団長	北 浦 浩 治 (66)
瑞 単	大 阪 府	元 吹田市消防団 副団長	東 野 昭代 司 (73)	瑞 単	兵 庫 県	元 たつの市新宮消防 団 団長	木 津 眞 人 (61)
瑞 単	大 阪 府	元 大阪狭山市消防団 分団長	溝 端 やす 保 令 (71)	瑞 単	兵 庫 県	元 太子町消防団 副団長	田 中 正 博 (66)
瑞 単	大 阪 府	元 河内長野市消防団 副団長	道 上 幸 夫 (77)	瑞 単	兵 庫 県	元 香美町消防団 副団長	田 村 武 夫 (65)
瑞 小	兵 庫 県	元 宝塚市 消防正監	永 田 健 次 (75)	瑞 単	兵 庫 県	元 芦屋市消防団 副団長	永 井 二 令 (74)
瑞 小	兵 庫 県	元 神戸市 消防正監	吉 宗 駒 郎 (75)	瑞 単	兵 庫 県	元 高砂市消防団 分団長	中 川 輝 一 (69)
瑞 単	兵 庫 県	元 明石市消防団 分団長	西 竹 雄 (71)	瑞 単	奈 良 県	元 明日香村消防団 団長	吉 川 豊 弘 (66)
瑞 単	兵 庫 県	元 神戸市北消防団 副団長	西 山 武 史 (74)	瑞 双	和 歌 山 県	元 田辺市消防団 副団長	宇 井 巖 (72)
瑞 単	兵 庫 県	元 伊丹市消防団 副団長	藤 原 勲 (67)	瑞 双	和 歌 山 県	元 橋本市消防団 団長	玉 居 明 夫 (74)
瑞 単	兵 庫 県	元 出石町消防団 副団長	松 原 行 夫 (72)	瑞 双	和 歌 山 県	元 九度山町消防団 団長	松 浦 宏 益 (79)
瑞 単	兵 庫 県	元 姫路市姫路西消防 団 分団長	安 政 敏 (74)	瑞 単	和 歌 山 県	元 那智勝浦町消防団 副団長	後 呂 信 喜 (77)
瑞 単	兵 庫 県	元 赤穂市消防団 副団長	山 脇 明 男 (66)	瑞 単	和 歌 山 県	元 和歌山市消防団 分団長	大 戸 淳 男 (76)
瑞 双	奈 良 県	元 十津川村消防団 団長	中 西 祥 夫 (71)	瑞 単	和 歌 山 県	元 田辺市消防団 副団長	小 川 晃 弘 (67)
瑞 双	奈 良 県	元 斑鳩町消防団 団長	森 口 昌 彦 (67)	瑞 単	和 歌 山 県	元 高野町消防団 副団長	隠地前 榮 治 (77)
瑞 双	奈 良 県	元 新庄町消防団 団長	山 本 英 輔 (68)	瑞 単	和 歌 山 県	元 熊野川町消防団 分団長	下ノ坊 守 明 (81)
瑞 単	奈 良 県	元 大和郡山市消防団 分団長	徂 面 利 勝 (76)	瑞 単	和 歌 山 県	元 海南市消防団 副団長	東 海 博 昭 (72)
瑞 単	奈 良 県	元 天川村消防団 副団長	岡 下 清 作 (78)	瑞 単	和 歌 山 県	元 和歌山市消防団 分団長	濱 口 勝 (75)
瑞 単	奈 良 県	元 平群町消防団 副団長	宮 前 清次郎 (72)	瑞 単	和 歌 山 県	元 有田川町消防団 分団長	松 本 實 (73)
瑞 単	奈 良 県	元 五條市消防団 分団長	山 崎 稔 (74)	瑞 小	鳥 取 県	元 鳥取県東部広域行 政管理組合 消防正監	松 下 弘 (70)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	鳥 取 県	元 南部町消防団 団長	井 上 清 (72)	瑞 単	島 根 県	元 隠岐の島町消防団 副団長	松 井 勝 朋 (66)
瑞 単	鳥 取 県	元 鳥取市消防団 副団長	辻 田 肇 (72)	瑞 単	島 根 県	元 出雲市湖陵消防団 団長	吉 田 健 二 (65)
瑞 単	鳥 取 県	元 米子市消防団 分団長	田 守 充 (75)	瑞 小	岡 山 県	元 倉敷市 消防正監	京 黒 克 視 (72)
瑞 単	鳥 取 県	元 倉吉市消防団 副団長	中 田 弘 (75)	瑞 双	岡 山 県	元 長船町消防団 団長	馬 場 武 夫 (72)
瑞 双	島 根 県	元 出雲市佐田消防団 団長	石 崎 均 (67)	瑞 双	岡 山 県	元 大佐町消防団 団長	矢 庭 史 (71)
瑞 双	島 根 県	元 江津市松江消防団 団長	井 上 重 忠 (70)	瑞 双	岡 山 県	元 玉野市消防団 団長	山 下 隆 行 (74)
瑞 双	島 根 県	元 安来市消防団 団長	井 上 茂 道 (70)	瑞 単	岡 山 県	元 岡山市消防団 副団長	吉 口 修 (67)
瑞 単	島 根 県	元 宍道町消防団 団長	岩 谷 和 夫 (71)	瑞 単	岡 山 県	元 津山市消防団 分団長	小 林 幹 夫 (70)
瑞 単	島 根 県	元 美都町消防団 副団長	齋 藤 久 義 (68)	瑞 単	岡 山 県	元 倉敷市消防団 分団長	戸 板 春 美 (75)
瑞 単	島 根 県	元 仁摩町消防団 分団長	島 田 斌 (82)	瑞 単	岡 山 県	元 旭町消防団 団長	難 波 敏 範 (71)
瑞 単	島 根 県	元 石見町消防団 副団長	隅 川 幸 雄 (74)	瑞 単	岡 山 県	元 倉敷市消防団 分団長	継 尾 昭 (68)
瑞 単	島 根 県	元 三隅町消防団 副団長	平 島 啓 三 (74)	瑞 単	岡 山 県	元 岡山市消防団 副団長	花 房 稔 (71)
瑞 単	岡 山 県	元 湯原町消防団 団長	船 越 哲 男 (69)	瑞 単	広 島 県	元 三次市消防団 副団長	藤 本 修 三 (72)
瑞 単	岡 山 県	元 津山市消防団 分団長	松 下 克 美 (70)	瑞 単	広 島 県	元 広島市西消防団 副団長	松 本 侃 司 (72)
瑞 単	岡 山 県	元 新見市消防団 分団長	三 上 功 (75)	瑞 単	広 島 県	元 木江町消防団 団長	本 岡 和 洋 (68)
瑞 双	広 島 県	元 江田島市消防団 団長	小 松 弘 満 (76)	瑞 単	広 島 県	元 三次市消防団 副団長	山 根 雅 晴 (66)
瑞 単	広 島 県	元 広島市中消防団 分団長	綾 嘉 明 (77)	瑞 単	広 島 県	元 宮島町消防団 団長	山 本 壮 一 (65)
瑞 単	広 島 県	元 広島市安佐北消防団 副団長	上 本 保 (79)	瑞 単	広 島 県	元 呉市消防団 副団長	脇 正 志 (65)
瑞 単	広 島 県	元 黒瀬町消防団 団長	大 田 一 則 (65)	瑞 双	山 口 県	元 美祿市消防団 団長	大 橋 喜 信 (72)
瑞 単	広 島 県	元 佐伯町消防団 団長	沖 本 富 男 (73)	瑞 双	山 口 県	元 由宇町消防団 団長	村 岡 常 壽 (70)
瑞 単	広 島 県	元 湯来町消防団 団長	木 村 明 義 (70)	瑞 単	山 口 県	元 光市消防団 団長	上 田 信 友 (72)
瑞 単	広 島 県	元 廿日市市消防団 団長	倉 田 征 士 (64)	瑞 単	山 口 県	元 油谷町消防団 分団長	大 汐 満 (74)
瑞 単	広 島 県	元 豊松村消防団 団長	坂 井 朝 昭 (68)	瑞 単	山 口 県	元 山陽町消防団 分団長	小 松 常 男 (79)
瑞 単	広 島 県	元 広島市東消防団 副団長	畑 之 夫 (69)	瑞 単	山 口 県	元 田布施町消防団 分団長	時 廣 誠 (75)
瑞 単	広 島 県	元 尾道市消防団 副団長	東 秋 光 (82)	瑞 単	山 口 県	元 徳山市消防団 分団長	面 林 稔 (77)



賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	山 口 県	元 萩市消防団 副団長	日 原 一 芳 (76)	瑞 単	徳 島 県	元 阿波市消防団 団長	伊 月 英 夫 (68)
瑞 単	山 口 県	元 日置町消防団 分団長	橋 本 繁 次 (80)	瑞 単	徳 島 県	元 徳島市消防団 副団長	川 原 常 良 (65)
瑞 単	山 口 県	元 須佐町消防団 分団長	原 山 清 (80)	瑞 単	徳 島 県	元 土成町消防団 団長	瀧 谷 潔 (72)
瑞 単	山 口 県	元 防府市消防団 団長	藤 井 哲 男 (75)	瑞 単	徳 島 県	元 美馬市消防団 副団長	鉄 野 永 (71)
瑞 単	山 口 県	元 防府市消防団 副団長	藤 井 久 (73)	瑞 単	徳 島 県	元 阿南市消防団 副団長	保 岡 照 男 (81)
瑞 単	山 口 県	元 周東町消防団 分団長	藤 本 静 雄 (70)	瑞 双	香 川 県	元 丸亀市消防団 団長	小 野 正 義 (81)
瑞 単	山 口 県	元 宇部市消防団宇部 消防団 団長	師 井 秀 利 (72)	瑞 双	香 川 県	元 琴平町消防団 団長	國 重 進 (71)
瑞 単	山 口 県	元 阿東町消防団 分団長	山 根 政 次 (76)	瑞 単	香 川 県	元 三野町消防団 団長	磯 崎 福 美 (79)
瑞 単	山 口 県	元 宇部市消防団宇部 消防団 分団長	山 本 昭 (74)	瑞 単	香 川 県	元 高瀬町消防団 団長	入 江 謙 次 (72)
瑞 双	徳 島 県	元 相生町消防団 団長	佐 賀 康 利 (85)	瑞 単	香 川 県	元 高松市消防団 分団長	鎌 野 之 治 (81)
瑞 双	徳 島 県	元 吉野川消防団 団長	勢 登 治 義 (72)	瑞 単	香 川 県	元 土庄町消防団 副団長	三 枝 豊 (74)
瑞 双	徳 島 県	元 鷲敷町消防団 団長	西 山 金太郎 (84)	瑞 単	香 川 県	元 大内町消防団 団長	佐 藤 泰 弘 (70)
瑞 単	香 川 県	元 宇多津町消防団 副団長	高 木 正 信 (73)	瑞 単	愛 媛 県	元 丹原町消防団 団長	佐 伯 伊 太 郎 (64)
瑞 単	香 川 県	元 国分寺町消防団 分団長	細 谷 智 (76)	瑞 単	愛 媛 県	元 松山市消防団 副団長	白 石 公 明 (68)
瑞 単	香 川 県	元 高松市消防団 副分団長	百 相 國 一 (79)	瑞 単	愛 媛 県	元 上島町消防団 副団長	早 瀬 忠 行 (67)
瑞 単	香 川 県	元 観音寺市消防団 副団長	矢 野 一 郎 (76)	瑞 単	愛 媛 県	元 瀬戸町消防団 分団長	山 本 守 守 (80)
瑞 単	香 川 県	元 塩江町消防団 副団長	山 田 道 雄 (76)	瑞 双	高 知 県	元 高知市消防団 団長	加 田 繁 喜 (76)
瑞 単	香 川 県	元 丸亀市消防団 分団長	横 田 実 (78)	瑞 双	高 知 県	元 高幡消防組合中土 佐消防団 副団長	小 林 紀 夫 (76)
瑞 双	愛 媛 県	元 柳谷村消防団 団長	横 川 國 男 (65)	瑞 単	高 知 県	元 仁淀川町消防団 団長	青 木 幸 雄 (72)
瑞 単	愛 媛 県	元 広田村消防団 分団長	相 原 寛 (69)	瑞 単	高 知 県	元 中芸広域連合北川 村消防団 団長	飯 尾 靖 (68)
瑞 単	愛 媛 県	元 西条市消防団 副団長	安 藤 勝 俊 (70)	瑞 単	高 知 県	元 南国市消防団 分団長	若 下 俊 雄 (81)
瑞 単	愛 媛 県	元 大洲市消防団 副団長	井 上 清 二 (64)	瑞 単	高 知 県	元 本山町消防団 団長	小笠原 恒 則 (68)
瑞 単	愛 媛 県	元 四国中央市川之江 消防団 副団長	大 西 義 信 (66)	瑞 単	高 知 県	元 大川村消防団 団長	近 藤 政 武 (70)
瑞 単	愛 媛 県	元 岩城村消防団 副団長	長 田 建 一 (74)	瑞 単	高 知 県	元 越知町消防団 団長	橋 詰 征 朗 (70)
瑞 単	愛 媛 県	元 菊間町消防団 副団長	越 智 達 己 (69)	瑞 単	高 知 県	元 伊野町消防団 分団長	濱 田 光 廣 (78)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	高 知 県	元 高幡消防組合十和消防団 団長	まつ 松 した 三 男 (70)	瑞 単	福 岡 県	元 福岡市博多消防団 分団長	こ 小 じま 鳩 義 一 (78)
瑞 小	福 岡 県	元 福岡市 消防司監	い 家 なか 一 夫 (74)	瑞 単	福 岡 県	元 北九州市若松消防団 分団長	ご 後 藤 幸 男 (74)
瑞 小	福 岡 県	元 北九州市 消防正監	い 伊 東 さとし 哲 (75)	瑞 単	福 岡 県	元 久留米市消防団 副分団長	さわ 澤 一 夫 (79)
瑞 双	福 岡 県	元 矢部村消防団 団長	きの 木 した 謙 吉 (76)	瑞 単	福 岡 県	元 行橋市消防団 分団長	たけ 竹 もと たつ 保 (78)
瑞 双	福 岡 県	元 高田町消防団 団長	くろ 黒 だ 次 郎 (74)	瑞 単	福 岡 県	元 金田町消防団 副分団長	なか 中 がわ 大 さむ 三 (78)
瑞 双	福 岡 県	元 遠賀町消防団 団長	ふる 古 野 克 憲 (74)	瑞 単	福 岡 県	元 北九州市八幡西消防団 分団長	ふく 福 田 つと 勉 (75)
瑞 単	福 岡 県	元 糸田町消防団 分団長	い 稲 田 もり 守 久 (80)	瑞 単	福 岡 県	元 糸田町消防団 分団長	よし 藤 なか きよし 潔 (83)
瑞 単	福 岡 県	元 赤池町消防団 分団長	お 大 久 保 和 仁 (80)	瑞 単	福 岡 県	元 方城町消防団 副団長	まつ 松 しら 島 繁 光 (80)
瑞 単	福 岡 県	元 北九州市小倉南消防団 分団長	お 尾 田 のぶ 徳 (73)	瑞 単	福 岡 県	元 筑紫野市消防団 分団長	やま 山 ぎし ひろ 幸 幸 (71)
瑞 単	福 岡 県	元 大牟田市消防団 団長	あ 菊 池 勝 之 助 (66)	瑞 単	福 岡 県	元 北九州市門司消防団 分団長	やま 山 した まさ 昌 義 (81)
瑞 単	福 岡 県	元 福岡市早良消防団 分団長	あ 城 里 生 正 和 (74)	瑞 単	福 岡 県	元 築上町消防団 副分団長	よし 吉 だ 明 男 (72)
瑞 単	福 岡 県	元 高田町消防団 団長	くま 熊 がわ 光 好 (61)	瑞 単	佐 賀 県	元 伊万里市消防団 副分団長	い 敷 もと 盛 重 利 (74)
瑞 単	佐 賀 県	元 小城市消防団 副団長	い 池 田 のぶ 喜 慶 (69)	瑞 単	長 崎 県	元 五島市消防団 分団長	しま 嶋 ぐち 忠 男 (82)
瑞 単	佐 賀 県	元 鹿島市消防団 副団長	し 七 田 たつ 辰 巳 (69)	瑞 単	長 崎 県	元 福島町消防団 副団長	し 志 みず 房 之 助 (72)
瑞 単	佐 賀 県	元 福富町消防団 分団長	た 田 ぐち 喜 三 郎 (71)	瑞 単	長 崎 県	元 千々石町消防団 副団長	じやう 城 代 義 洲 (76)
瑞 単	佐 賀 県	元 太良町消防団 副団長	く 土 井 陸 男 (66)	瑞 単	長 崎 県	元 長崎市消防団 副団長	たけ 竹 の 野 義 秋 (70)
瑞 単	佐 賀 県	元 嬉野市消防団 団長	ふる 古 川 のぶ 幸 (66)	瑞 単	長 崎 県	元 長崎市消防団 副団長	つ 辻 きよ 喜 (71)
瑞 単	佐 賀 県	元 嬉野町消防団 団長	みや 宮 崎 春 夫 (68)	瑞 単	長 崎 県	元 厳原町消防団 副団長	ふ 藤 もと しん 真 弼 (76)
瑞 小	長 崎 県	元 長崎県東地域広域市町村圏組合 消防正監	い 岩 もと いさ 勇 (72)	瑞 単	長 崎 県	元 崎戸町消防団 副団長	ほん 本 だ 正 吉 (72)
瑞 小	長 崎 県	元 佐世保市 消防正監	くろ 栗 林 正 明 (75)	瑞 単	長 崎 県	元 大島村消防団 団長	町 町 田 ちから 力 (76)
瑞 双	長 崎 県	元 上県町消防団 団長	む 緒 方 實 行 (74)	瑞 単	長 崎 県	元 田平町消防団 副団長	まつ 松 やま 輝 男 (77)
瑞 双	長 崎 県	元 新上五島町消防団 副団長	つ 津 田 隆 一 郎 (73)	瑞 双	熊 本 県	元 矢部町消防団 団長	う 梅 の 野 信 一 郎 (78)
瑞 単	長 崎 県	元 有家町消防団 団長	い 伊 藤 大 吉 (70)	瑞 双	熊 本 県	元 甲佐町消防団 団長	い 齋 藤 ひで 秀 秋 (64)
瑞 単	長 崎 県	元 小佐々町消防団 団長	い 岩 井 平 重 郎 (70)	瑞 双	熊 本 県	元 南関町消防団 団長	た 田 なか 修 一 (66)
瑞 単	長 崎 県	元 郷ノ浦町消防団 副団長	あ 岡 部 邦 男 (77)	瑞 双	熊 本 県	元 有明消防組合 消防正監	ふる 古 澤 やす 安 治 (75)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	熊 本 県	元 あさぎり町消防団 団長	鬼塚 孝 (68)	瑞 単	大 分 県	元 荻町消防団 団長	小出 靖 朗 (68)
瑞 単	熊 本 県	元 三角町消防団 団長	小林 健二郎 (65)	瑞 単	大 分 県	元 大分市消防団 分団長	野中 一 男 (77)
瑞 単	熊 本 県	元 栖本町消防団 団長	澤村 東 洋 (64)	瑞 単	大 分 県	元 別府市消防団 分団長	三ヶ尻 康 彦 (80)
瑞 単	熊 本 県	元 熊本市消防団 分団長	園田 一 光 (69)	瑞 単	宮 崎 県	元 串間市消防団 分団長	大下 茂 彦 (66)
瑞 単	熊 本 県	元 天草町消防団 団長	松江 勝 彌 (66)	瑞 単	宮 崎 県	元 日南市消防団 副団長	竹井 司 郎 (65)
瑞 単	熊 本 県	元 熊本市御船町消防団 団長	餅崎 武 久 (64)	瑞 単	宮 崎 県	元 串間市消防団 分団長	武内 久 彦 (65)
瑞 単	熊 本 県	元 一の宮町消防団 団長	渡邊 靖 昭 (64)	瑞 単	宮 崎 県	元 都城市都城消防団 分団長	田 牧 辰 男 (69)
瑞 双	大 分 県	元 本耶馬溪町消防団 団長	竹本 喜 好 (66)	瑞 小	鹿 児 島 県	元 鹿児島市 消防正監	鉛山 忠 信 (70)
瑞 単	大 分 県	元 日田市消防団 副団長	薄木 敏 男 (78)	瑞 双	鹿 児 島 県	元 肝付町消防団 団長	北山 幸 男 (73)
瑞 単	大 分 県	元 大田村消防団 副団長	小川 自 洪 (76)	瑞 双	鹿 児 島 県	元 霧島市準人消防団 団長	中村 隆 良 (66)
瑞 単	大 分 県	元 玖珠町消防団 副団長	梶原 敏 彦 (69)	瑞 双	鹿 児 島 県	元 奄美市消防団 団長	濱口 政 廣 (75)
瑞 単	大 分 県	元 佐伯市消防団 副団長	加藤 公 将 (72)	瑞 単	鹿 児 島 県	元 加世田市消防団 分団長	安 樂 昭 (75)

瑞 単	鹿 児 島 県	元 鹿児島市消防団 副団長	大 園 清 己 (73)
瑞 単	鹿 児 島 県	元 大根占町消防団 分団長	大 津 昇 (79)
瑞 単	鹿 児 島 県	元 樋脇町消防団 団長	折小野 工旗郎 (72)
瑞 単	鹿 児 島 県	元 佐多町消防団 団長	川田原 良 明 (77)
瑞 単	鹿 児 島 県	元 鹿屋市吾平消防団 団長	田 畑 昭 南 (67)
瑞 単	鹿 児 島 県	元 鶴田町消防団 副団長	地頭園 誠 一 (72)
瑞 単	鹿 児 島 県	元 霧島市準人消防団 副団長	吉 留 勝 男 (70)
瑞 単	鹿 児 島 県	元 鹿児島市消防団 分団長	渡邊 隼 人 (84)
瑞 単	沖 縄 県	元 宜野湾市消防団 副団長	大 城 正 吉 (74)
旭 双	千 葉 県	元 (財)千葉県危険物安 全協会連合会 会長	穴 倉 誠 三 (79)
旭 双	千 葉 県	現 (財)千葉県消防設備 協会 会長	庄 司 兼次郎 (82)

## 平成21年秋の褒章受章者名簿（消防関係）

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）
藍 綬	北 海 道	現 芦別市消防団 分団長	岡 本 秀 夫 (61)	藍 綬	栃 木 県	現 矢板市消防団 副団長	相 馬 宗 司 (59)
藍 綬	北 海 道	現 北見地区消防組合 訓子府消防団 副団長	西 山 孝 正 (60)	藍 綬	栃 木 県	現 西方町消防団 団長	渡 邊 秀 男 (55)
藍 綬	青 森 県	現 五戸町消防団 副団長	川 村 浩 昭 (62)	藍 綬	群 馬 県	現 前橋市消防団 団長	小 林 要 一 (60)
藍 綬	青 森 県	現 大間町消防団 副団長	傳 法 秀 之 (59)	藍 綬	群 馬 県	現 高崎市消防団 副団長	平 崎 良 一 (60)
藍 綬	青 森 県	現 むつ市消防団大畑 消防団 分団長	二本柳 政 吉 (61)	藍 綬	千 葉 県	現 柏市消防団 副団長	丹 治 満 (54)
藍 綬	秋 田 県	現 大潟村消防団 団長	高 橋 重 男 (58)	紅 綬	東 京 都	人命救助者	小野寺 元 稔 (20)
藍 綬	秋 田 県	現 仙北市消防団 副団長	高 山 藤 悦 (63)	紅 綬	東 京 都	人命救助者	佐 藤 繁 己 (68)
藍 綬	山 形 県	現 川西町消防団 団長	寒河江 輝 文 (58)	紅 綬	東 京 都	人命救助者	佐 藤 伸 行 (37)
藍 綬	福 島 県	現 相馬市消防団 分団長	山 崎 長 生 (62)	紅 綬	東 京 都	人命救助者	杉 本 裕 二 (44)
藍 綬	茨 城 県	現 土浦市消防団 団長	菊 田 宏 一 (65)	紅 綬	東 京 都	人命救助者	平 岡 幹 夫 (52)
藍 綬	栃 木 県	現 佐野市消防団 副団長	岩 澤 敏 雄 (65)	紅 綬	東 京 都	人命救助者	吉 市 泰 史 (50)
藍 綬	栃 木 県	現 下野市消防団 副団長	大 塚 洋 一 (62)	紅 綬	東 京 都	人命救助者	松 本 優 士 (19)
藍 綬	東 京 都	現 城東消防団 副団長	飯 村 俊 夫 (62)	藍 綬	石 川 県	現 七尾鹿島広城園事 務組合第2消防団 副団長	杉 本 茂 一 (62)
藍 綬	東 京 都	現 向島消防団 副団長	大 平 幸 雄 (63)	藍 綬	石 川 県	現 加賀市消防団 副団長	寺 尾 一 彦 (62)
藍 綬	東 京 都	現 池袋消防団 副団長	鈴 木 昭 徳 (62)	藍 綬	石 川 県	現 小松市消防団 分団長	前 田 英 樹 (66)
藍 綬	東 京 都	現 赤坂消防団 分団長	鈴 木 正 光 (61)	紅 綬	山 梨 県	人命救助者	矢 野 智 恵 子 (50)
藍 綬	東 京 都	現 八王子市消防団 副団長	武 内 美 正 (64)	藍 綬	岐 阜 県	現 下呂市消防団 団長	岩 佐 鏡 夫 (61)
藍 綬	東 京 都	現 新宿消防団 副団長	田 中 正 憲 (63)	藍 綬	岐 阜 県	現 安八町消防団 団長	堀 知 靖 (66)
藍 綬	東 京 都	現 田園調布消防団 分団長	網 嶋 弘 招 (64)	紅 綬	愛 知 県	人命救助者	白 巻 國 子 (67)
藍 綬	東 京 都	現 西新井消防団 副団長	藤 田 諤 (64)	藍 綬	愛 知 県	現 名古屋市矢田消防 団 団長	大 口 正 八 (69)
藍 綬	東 京 都	現 狛江市消防団 団長	谷 田 部 利 夫 (59)	藍 綬	愛 知 県	現 名古屋市野田消防 団 団長	小 川 和 男 (69)
藍 綬	東 京 都	現 四谷消防団 分団長	山 路 政 一 (61)	藍 綬	三 重 県	現 いなべ市消防団 団長	小 澤 和 茂 (65)
藍 綬	東 京 都	現 大井消防団 副団長	渡 邊 一 弘 (63)	藍 綬	三 重 県	現 四日市市消防団 分団長	水 谷 延 幸 (66)
藍 綬	神 奈 川 県	現 横須賀市消防団 副団長	嘉 山 準 次 (60)	藍 綬	滋 賀 県	現 甲賀市消防団 団長	植 田 和 生 (52)
藍 綬	神 奈 川 県	現 川崎市中原消防団 副団長	田 中 実 一 (56)	藍 綬	滋 賀 県	現 大津市消防団 副団長	内 田 仁 一 (60)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
藍 綬	大 阪 府	現 泉南市消防団 団長	定 野 豊 繁 (64)	藍 綬	鳥 取 県	現 米子市消防団 分団長	金 山 勝 憲 (64)
藍 綬	大 阪 府	現 高槻市消防団 副団長	高 野 吉 功 (61)	藍 綬	島 根 県	現 安来市消防団 副団長	細 田 嘉 幸 (63)
藍 綬	大 阪 府	現 池田市消防団 副団長	滝 本 則 夫 (61)	藍 綬	岡 山 県	現 吉備中央町消防団 団長	亀 山 龍 一 (57)
藍 綬	大 阪 府	現 松原市消防団 副分団長	田 中 光 治 (59)	藍 綬	岡 山 県	現 矢掛町消防団 副団長	木 口 信 之 (57)
藍 綬	大 阪 府	現 茨木市消防団 副団長	西 田 明 (62)	藍 綬	岡 山 県	現 瀬戸内市消防団 副団長	福 池 幹 夫 (57)
藍 綬	兵 庫 県	現 三木市消防団 団長	中 西 君 一 (57)	藍 綬	山 口 県	現 周南市消防団 副団長	橋 本 賢 治 (61)
藍 綬	兵 庫 県	現 佐用町消防団 団長	松 田 芳 夫 (62)	藍 綬	香 川 県	現 綾川町消防団 副団長	岡 本 薫 (62)
藍 綬	奈 良 県	現 山辺広域行政事務 組合田原本消防団 副団長	今 西 和 夫 (59)	藍 綬	福 岡 県	現 嘉麻市消防団 団長	大 里 健 次 (64)
藍 綬	奈 良 県	現 山辺広域行政事務 組合三宅消防団 副団長	志 野 健 司 (57)	藍 綬	福 岡 県	現 桂川町消防団 団長	加 束 政 勝 (66)
藍 綬	奈 良 県	現 上牧町消防団 団長	竹 島 成 佳 (54)	藍 綬	福 岡 県	現 八女市消防団 団長	坂 田 義 幸 (64)
藍 綬	奈 良 県	現 王寺町消防団 団長	福 井 伊 佐 男 (58)	藍 綬	熊 本 県	現 宇城市消防団 副団長	小 田 直 之 (46)
藍 綬	奈 良 県	現 安堵町消防団 団長	森 田 瞳 (62)	藍 綬	熊 本 県	現 植木町消防団 団長	牧 野 隆 一 (55)

藍 綬	熊 本 県	現 宇土市消防団 団長	宮 原 雄 一 (56)
藍 綬	宮 崎 県	現 宮崎市消防団 分団長	近 藤 芳 昭 (61)
藍 綬	宮 崎 県	現 高原町消防団 団長	弘 田 留 助 (66)
黄 綬	東 京 都	現 ㈱ニッショウ 代表取締役	金 子 勝 明 (68)
黄 綬	沖 縄 県	現 沖縄ホーチキ㈱ 代表取締役	喜 瀬 啓 二 (64)
黄 綬	山 梨 県	現 三和防災㈱ 代表取締役	廣 瀬 美 與 子 (65)
藍 綬	和 歌 山 県	現 和歌山県婦人防火 クラブ連絡協議会 会長	前 原 紗 代 (72)
黄 綬	東 京 都	現 東京サイレン㈱ 代表取締役会長	小 山 哲 也 (75)
黄 綬	鳥 取 県	現 ㈱吉谷機械製作所 代表取締役社長	吉 谷 典 雄 (57)



# 平成21年版消防白書概要

総務省消防庁 総務課

平成21年版消防白書が、平成21年11月27日の閣議配布を経て公表されました。ここでは、「特集」、「トピックスⅠ～Ⅲ」を中心に、白書のポイントを紹介します。

主な統計数値については、P.27をご覧ください。

また、白書全文については、消防庁のホームページ（<http://www.fdma.go.jp/concern/publication/index.html>）でもご覧になれます。

## 〈特集〉

### 消防と医療の連携の推進～消防と医療の連携による救急搬送の円滑化～

## 1. はじめに

近年、医療の進歩により、救急搬送における病院選定から医療機関における救急医療の提供までの一連の行為を円滑に実施することが、傷病者の救命率の向上及び予後の改善等の観点から、重要な課題とされてきている。

少子高齢化、核家族化の進展や住民意識の変化等に伴い、救急需要が増加しており、現場到着から病院収容までの時間が全体として遅延傾向にある。中でも、妊婦の救急搬送事案など傷病者を受け入れる医療機関が速やかに決まらない事案（以下「受入医療機関の選定困難事案」という。）も発生しており、国民の安心・安全確保の観点から、円滑な救急搬送及び受入体制を構築し、受入医療機関の選定困難事案を解消することが喫緊の課題とされている。

## 2. 救急搬送における医療機関の受入状況

平成20年の「救急搬送における医療機関の受入状況等実態調査」によれば、例えば重症以上傷病者の搬送事案において、医療機関に受入れの照会を4回以上行った事案が1万4,732件（平成19年1万4,387件）あるなど、相当数の受入医療機関の選定困難事案が発生している。また、地域別の状況を見ると、首都圏、近畿圏等の大都市部において照会回数が多い事案が多く見られる。

## 3. 消防法の改正

### (1) 改正までの経緯

救急搬送における受入医療機関の選定が大変厳しい状況にあることを踏まえ、平成19年から平成20年にかけて「救急業務高度化推進検討会」に「消防機関と医療機関の連携に関する作業部会」を設け、当検討会において円滑な救急搬送・受入医療体制を確保するための対策について検討が重ねられ、平成21年3月に「平成20年度救急業務高度化推進検討会報告書」が取りまとめられた。

また、消防審議会においても、消防機関と医療機関の連携と、円滑な救急搬送・受入体制の構築のあり方について審議が行われ、平成21年2月に「消防機関と医療機関の連携のあり方に関する答申」が提出された。

報告書及び答申を受け、消防庁は厚生労働省と連携して消防法の改正について検討を行った。消防法改正法案は、第百七十一回通常国会に提出され、平成21年4月24日に全会一致で可決された。その後、平成21年5月1日に改正消防法が公布され、公布後6か月の周知・準備期間を経て、平成21年10月30日に施行された。

### (2) 消防機関と医療機関の連携に関する改正事項

改正された法律は消防機関と医療機関が連携し、搬送及び受入れの実施に関する基準の策定や両機関が参加する協議組織の設置に関するものとなっている。

#### ① 実施に関する基準の策定

都道府県が消防機関による傷病者の搬送及び医療機関による傷病者の受入れの実施に関する基準（以下「実施基準」という。）を策定し、公表することとしており、実施基準の主な内容は以下のとおりである。

- (i) 消防機関が、傷病者の状況に応じた適切な医療の提供が行われる医療機関のリストの中から搬送先医療機関を選定するための基準

(ii) 消防機関が医療機関に対し傷病者の状況を伝達するための基準

(iii) 搬送先医療機関が速やかに決定しない場合において、傷病者を受け入れる医療機関を確保するために、消防機関と医療機関との間で合意を形成するための基準

このほか、消防機関は傷病者の搬送を行う際には実施基準を遵守することとされており、医療機関については傷病者を受け入れる際に実施基準を尊重するよう努めるものとされている。

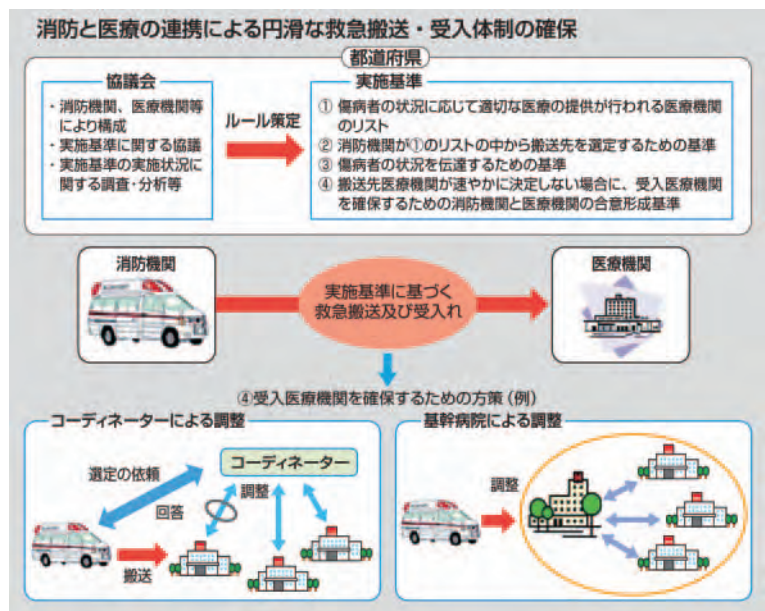
また、国は必要な情報の提供、助言その他の援助を行うものとされており、消防庁と厚生労働省が合同で「傷病者の搬送及び受入れの実施基準等に関する検討会」を開催して都道府県が実施基準を策定する際のガイドラインを策定し、改正法施行にあわせて、情報提供を行った。

② 実施基準に関する協議等を行うための協議会の設置

都道府県は、消防機関と医療機関が同じテーブルについて、傷病者の搬送及び受入れに関する実施基準を策定、変更するための協議や、救急搬送及び受入れの実施に関する連絡調整を行うための協議会を設置することとされている。構成員は以下のとおり。

- (i) 消防機関の職員
- (ii) 医療機関の管理者又はその指定する医師
- (iii) 診療に関する学識経験者の団体の推薦する者
- (iv) 都道府県の職員
- (v) 学識経験者その他の都道府県が必要と認める者

この協議会は、実施基準や傷病者の搬送・受入れの実施に関して、都道府県知事に意見を述べることができ、受入医療機関の選定困難事案を解消し、円滑な搬送及び受入れを実現するための環境整備を提言することが可能となっている。また、協議会は、既存のメディカルコントロール協議会の枠組みを活用す



ることにより、実効的な実施基準が作成できるものと考えられる。

(3) 目的規定における救急業務の明確化

救急業務の重要性の高まり、災害や事故だけではなく急病を理由とする出場件数の増加を踏まえ、今般の消防法改正において、消防法第1条の目的規定に「災害等による傷病者の搬送を適切に行い」という記述を加え、消防の目的に救急業務を明示する改正を行ったところであり、救急業務の位置付けが消防業務の中で明確化された。

トピックス I  
新型インフルエンザの発生と対応

1. 消防機関における新型インフルエンザ対策

新型インフルエンザとは、従来ヒトからヒトへの感染が認められていなかったインフルエンザウイルスが、遺伝子変異によりヒトからヒトへ容易かつ継続的に感染するようになったものである。

毒性の強いおそれがある新型インフルエンザの発生時には、消防機関において感染防止対策を徹底し、かつ地方公共団体の衛生部局や医療機関と連携し、搬送・受入体制を構築しておくことが重要である。

さらに、救急搬送や救急要請の件数の増大が予想され、かつ消防職員の感染による業務体制の縮小、事業者の感染による資器材供給の不足が予想されるため、消防機関において新型イン

フルエンザ流行時においても救急業務を継続するための計画（業務継続計画）を策定しておく必要がある。

そこで、平成20年6月に「消防機関における新型インフルエンザ対策検討会」を設置し、同年12月には、「消防機関における新型インフルエンザ対策のための業務継続計画ガイドライン」を取りまとめ、消防機関が業務継続計画を策定する際に参考となる優先業務選定リストの例や、感染疑い患者を救急搬送する際の留意事項等を示した。

## 2. 新型インフルエンザ（H1N1型）の発生と対応

平成21年4月、アメリカ合衆国及びメキシコにおいて、豚を由来とするインフルエンザ（H1N1型）のヒトからヒトへの感染が確認された。WHO（世界保健機関）は4月27日に新型インフルエンザの発生段階をフェーズ4に引き上げる宣言を行い、以後、4月30日にフェーズ5に、6月12日に最高の警戒レベルであるフェーズ6に引き上げる宣言を行った。

我が国では、4月28日に新型インフルエンザ対策本部が設置され、同日の新型インフルエンザ対策本部会合において、基本的対処方針（相談窓口の設置等情報提供体制の充実、水際対策の徹底、パンデミックワクチンの製造着手及び国民への注意喚起）を決定した。その後、WHOの警戒レベルの引き上げに伴い、5月1日に政府として基本方針を改定し、感染の疑いのある者に対する適切な医療の提供、国内で発生した場合における積極的疫学調査や感染拡大防止措置を適切に実施する方針を示した。WHOのフェーズ6への警戒レベルの引き上げ時には、関係機関に対し、引き続き基本的対処方針に基づく弾力的な対策の実施と、感染拡大防止、医療体制の充実強化に努めることを指示した。

消防庁においては4月28日に消防庁新型インフルエンザ緊急対策本部を設置し、各消防機関に対し、都道府県衛生主管部局等との連携を強化すること、新型インフルエンザ患者を救急搬送する可能性があることを想定し感染防止対策を徹底することを要請した。

新型インフルエンザ患者発生数は、平成21年8月以降、1週間で数万人規模の感染が推計されるなど、増加傾向にある。今後、新型インフルエンザウイルスは遺伝子変異により毒性が強くなる可能性もあるとされている。

消防庁では今回の事態における課題等について、平成21年度の「消防機関における新型インフ

ルエンザ対策検討会」において議論を行い、消防機関における業務継続のあり方を検討するほか、H1N1型新型インフルエンザの感染拡大や強毒化に対し万全の体制を整えるため、資器材の配備や消防機関と衛生部局等の連携体制の強化などの対策を推進していくこととしている。

## トピックスⅡ 住宅用火災警報器の 速やかな普及に向けた取組

### 1. 住宅火災の死者数の現状

住宅火災の死者数（放火自殺者等を除く）は、平成15年以降連続して1,000人を超える高水準で推移している。このうち、約6割が65歳以上の高齢者であることから、高齢化の進展に伴って今後さらに死者数が増加することが懸念されている。

### 2. 住宅用火災警報器の設置の義務化

近年の住宅火災による死者数の増や、今後の高齢化進展を背景として、戸建てを含むすべての住宅を対象に住宅用火災警報器（以下「住警器」という）の設置を義務付ける消防法の改正が平成16年に行われた。平成18年6月から全国で義務化された新築住宅に続き、市町村条例で定めることとされた既存住宅への義務化についても、既に一部の地域で始まっており、今後逐次拡大され、平成23年6月までには全国で義務化される。

我が国に先立って義務化を進めた米国では、住宅への火災警報器の設置普及に伴い住宅火災による死者数が半減するという効果が現れており、我が国においても、住警器の早期普及により、住宅火災による死者の低減が期待される。

### 3. 住警器の普及に向けた取組

#### （1）住警器の普及状況

住警器の普及状況は、各地域においてアンケート等の方法により調査されているが、消防庁がその結果を収集し、独自の方法で平成21年3月時点における、全国の普及率を推計した結果は45.9%となっている。前回調査を行った平成20年6月時点から推計普及率は10ポイント程度伸びており、各地域における取組が進んでいるが、既に義務化されている地域においても普及率が55.2%に留まる等、一層の取組が必要である。

効果的な普及策の展開等のため、各地域においては、住警器の普及状況を定期的に把握



し、公表していくことが求められる。

## (2) 国民運動的な取組の展開

平成20年12月17日に開催した「住宅用火災警報器設置推進会議」において、「住宅用火災警報器設置推進基本方針」の決定を受け、消防庁では、基本方針に基づいた住警器の早期普及に係る取組を推進している。

### ア 地域に密着した取組のための体制整備

住警器の設置を推進するためには、消防署又は消防本部と消防団、婦人（女性）防火クラブなどの関係者が、当該地域の实情に応じて、地域社会に密着した取組を一体となって展開できるよう、相互の密接な連携を図ることが不可欠である。

### イ シンポジウムの開催

消防庁では、消防団や婦人（女性）防火クラブ、自主防災組織等の地域コミュニティのリーダー等を対象として、住警器の普及を呼びかけるシンポジウムを全国各地で開催し、地域力を活かした先進的な取組事例の紹介等を行っている。住警器の普及を推進するための知恵や工夫を参加者が持ち帰り、自らの地域での取組に活用することにより住警器の普及が加速することが期待される。

## トピックスⅢ

### 新たな形態の建築物や施設等に 対応した防火対策

## 1. 大阪市浪速区個室ビデオ店火災を踏まえた 防火安全対策について

### (1) 大阪市浪速区個室ビデオ店火災の概要

平成20年10月1日未明、大阪市浪速区の個室ビデオ店「キャッツ」において、死者15人、負傷者10人（うち1人が10月14日に死亡）という重大な人的被害を伴う火災が発生した。消防庁では、消防法の規定により消防庁長官が行う調査として現地に職員を派遣し、大阪市消防局とともに火災原因調査を行った。

### (2) 全国の個室ビデオ店等に関する緊急調査及びフォローアップ調査の結果

全国の個室ビデオ店等（個室ビデオ店、カラオケボックス、インターネットカフェ、漫画喫茶、テレホンクラブ等の遊興に供する個室型店舗）に係る緊急調査を行い、その後3回のフォローアップ調査を行った。

### (3) 予防行政のあり方に関する検討会

大阪市浪速区個室ビデオ店火災を踏まえ、有識者等から構成される「予防行政のあり方に関する検討会」を開催し、個室ビデオ店等

における防火安全対策を検討し、個室ビデオ店等における防火安全対策の現状と課題の整理が行われ、対応の考え方について、提言が取りまとめられた。

### (4) 個室ビデオ店等における防火安全対策の推進

上記提言を踏まえ、消防庁では次のような防火安全対策を推進している。

#### ア 消防法施行規則等の一部改正

- ・個室ビデオ等に対応した火災警報や誘導表示の機能等の確保等

#### イ 防火管理体制の確保

- ・個室型店舗等の消防訓練マニュアル及び啓発用リーフレットの作成等

#### ウ 消防機関における立入検査、違反是正等の充実強化

- ・消防庁において立入検査マニュアル・違反処理マニュアルの改正等

## 2. 群馬県渋川市老人ホーム火災を踏まえた防火安全対策について

### (1) 群馬県渋川市老人ホーム火災の概要

平成21年3月19日、群馬県渋川市の老人ホーム（老人福祉法第29条による届出は未届）において、死者10人、負傷者1人という重大な人的被害を伴う火災が発生した。消防庁では現地に職員を派遣し、渋川広域消防本部とともに火災原因調査を行った。

### (2) 社会福祉施設等に係る防火対策の徹底及び緊急調査の実施

未届の有料老人ホームを含む全国の入所社会福祉施設等に対し、防火対策の徹底を求めるとともに福祉部局及び建築部局と連携を図り、緊急調査を行った。特に未届の有料老人ホームにおいては高い割合（85.7%）で消防法令違反が発見されたことから、フォローアップ調査を行い、違反是正の徹底を図っている。

### (3) 小規模社会福祉施設等における防火安全対策の推進

本火災の教訓に鑑み、消防庁では次のような防火安全対策を推進している。

#### ア 早期に火災の発生を覚知する対策

- ・自動火災報知設備の設置の指導の徹底等

#### イ 自力避難困難な入所者の避難を支援する対策

- ・職員等による避難誘導・介助体制の強化等

#### ウ 火災の延焼拡大を防止する対策

- ・寝具類等第一着火物となりやすい物品の防火化・難燃化等

## 本文の構成

### 第1章 災害の現況と課題

我が国では、火災だけでなく、様々な災害が発生している。

この章では、出火状況、火災による死者の状況をはじめ、各種災害の現況及び最近の動向、火災予防行政の現況と課題等について、次の項目ごとに記述している。

- ◎火災予防
- ◎危険物施設等における災害対策
- ◎石油コンビナート災害対策
- ◎林野火災対策      ◎風水害対策
- ◎震災対策          ◎原子力災害対策
- ◎その他災害対策

### 第2章 消防防災の組織と活動

近年の少子高齢化や核家族化の進展、住民意識の変化等が消防防災体制及び活動に影響を及ぼしている。

この章では、常備消防機関及び消防団の体制や活動状況、緊急消防援助隊等について、次の項目ごとに記述している。

- ◎消防体制
  - …消防組織、消防施設、消防財政、消防体制の整備の課題
- ◎消防職団員の活動
  - …活動状況、公務災害の状況、勤務条件、安全衛生体制の整備、消防表彰等
- ◎教育訓練体制
  - …消防職員及び消防団員の教育訓練、職場教育、消防学校における教育訓練、消防大学校における教育訓練及び技術的援助、その他の教育訓練、全国消防救助技術大会の実施、防災教育の普及
- ◎救急体制
  - …救急業務の実施状況、救急業務の実施体制、消防と医療の連携推進、救急業務高度化の推進、救急業務体制の整備の課題
- ◎救助体制
  - …救助活動の実施状況、救助活動の実施体制、救助体制の整備
- ◎航空消防防災体制
  - …航空消防防災体制の現況、今後の取組
- ◎広域消防応援と緊急消防援助隊
  - …消防の相互応援協定や緊急消防援助隊の経緯と活動
- ◎国と地方公共団体の防災体制
  - …国と地方の防災組織等、地域防災計画、防

災訓練の実施、防災体制の整備の課題

- ◎消防防災の情報化の推進
  - …被害状況等に係る情報の収集・伝達体制の確立、災害に強い消防防災通信ネットワークの整備、情報処理システムの活用、情報化の今後の展開
- ◎規制改革等への対応
  - …規制改革の取組、構造改革特区制度への取組、市場化テストへの対応

### 第3章 国民保護への取組

国民保護法に基づき地方公共団体は、警報の伝達や避難の指示、救援の実施等の国民保護措置の多くを実施する責務を有するほか、平時においても、国民の保護に関する計画の作成や必要な組織の整備、訓練の実施などが求められている。

この章では、国民保護への取組について次の項目ごとに記述している。

- ◎国民保護法の目的等
- ◎国民の保護に関する基本指針・消防庁国民保護計画
- ◎地方公共団体における国民保護計画の整備
- ◎国民保護体制の充実
- ◎テロ対策

### 第4章

#### 自主的な防災活動と災害に強い地域づくり

災害に強い安全な地域社会をつくるためには、国民の防火防災意識の高揚、大規模災害に的確に対応するための地域における自主的な防災活動が重要である。

この章では、防火防災意識の高揚等について、次の項目ごとに記述している。

- ◎防火防災意識の高揚
  - …火災予防運動、危険物安全週間、防災知識の普及啓発
- ◎住民等の自主防災活動
  - …コミュニティにおける自主防災活動、事業所の自主防災体制、災害時のボランティア活動
- ◎災害に強い安全なまちづくり
  - …防災基盤等の整備、防災に配慮した地域づくり

### 第5章 国際的課題への対応

災害から、国民の生命、身体及び財産を守ることは万国共通の課題であり、消防防災分野における国際協力・交流は、人道主義、国際社会の相互依存関係、環境保全等の観点から、必要



性・緊急性の高い分野である。

この章では、国際消防救助隊の活動や開発途上諸国への消防技術協力等について、次の項目ごとに記述している。

◎国際緊急援助

…設立の経緯、派遣体制、派遣実績

◎国際協力・国際交流

…開発途上諸国等に対する国際協力、国際交流

◎基準・認証制度の国際化への対応

…消防用機械器具等の国際規格の現況、規格の国際化への対応

◎地球環境の保全（ハロン消火剤等の使用抑制）

…ハロン消火剤等の使用抑制について、規制対象物質を含有する泡消火薬剤等の使用抑制について

の軽減、原因の究明等に科学技術が果たす役割はますます重要になっている。

この章では、消防研究センターが実施した研究・開発や競争的研究資金による産学官連携の推進等について、次の項目ごとに記述している。

◎消防防災に関する研究

◎火災原因調査及び災害・事故等への対応

◎消防機関の研究体制及び研究の概要

◎消防防災科学技術の研究の課題

附属資料等

附属資料は、主に統計数値を掲載している。

また、「囲み記事」として、平成21年6月1日から法施行により義務付けられた「防災管理制度と自衛消防体制の強化について」や、平成21年度に消防機関が医療機関と連携して実施する「市民の救急相談に応じる窓口の設置～救急安心センターモデル事業～」など、特筆すべき案件を記述している。

第6章 消防防災の科学技術の研究・開発

災害の複雑多様化に伴い、災害の防止、被害

＜平成21年版消防白書の主な統計数値＞

1. 火災の状況

(平成20年中)

	平成20年中出火件数	前年比(件数)	前年比(%)	死者数(人)	前年比(人)	前年比(%)
建 物	30,053	△ 1,195	△ 3.8%	1,499	△ 3	△ 0.2%
林 野	1,891	△ 266	△ 12.3%	13	0	0.0%
車 両	5,358	△ 440	△ 7.6%	156	△ 23	△ 12.8%
船 舶	101	△ 22	△ 17.9%	2	0	0.0%
航 空 機	3	△ 3	△ 50.0%	1	1	皆増
そ の 他	14,988	△ 262	△ 1.7%	298	△ 11	△ 3.6%
合 計	52,394	△ 2,188	△ 4.0%	1,969	△ 36	△ 1.8%

※ 出火件数、焼損棟数、建物焼損床面積、死者数、損害額は対前年比で、ともに減少  
 ※ 住宅火災による死者数（放火自殺者等を除く）は1,123人で、うち65歳以上の高齢者は710人（全体の63.2%）と6割を占めている  
 ※ 1日当たり143件の火災が発生  
 ※ 主な出火原因 1位：放火 2位：ごんろ 3位：たばこ 4位：放火の疑い（放火は12年連続1位）  
 ※ 放火及び放火の疑いによる出火件数は、1万776件（全出火件数の20.6%）

2. 緊急消防援助隊の活動状況

(平成21年中)

活動期間	災 害 の 内 容	出 動 部 隊
8月11日（1日）	「駿河湾を震源とする地震」 駿河湾で震度6弱の地震が発生	東京都、山梨県、愛知県から計6隊、29人が活動に従事（うち航空部隊3隊19人）

3. 消防組織

(平成21年4月1日現在)

	平成21年4月1日現在	前年比(件数)	前年比(%)	備 考
消防本部	803	△ 4	△ 0.5%	市町村合併と広域化による減
消防署	1,710	4	0.2%	
消防職員(人)	158,327	467	0.3%	
消防団	2,336	△ 44	△ 1.8%	1,154団(全体の49.4%)
消防団員(人)	885,394	△ 3,506	△ 0.4%	
女性消防団員(人)	17,879	1,180	7.1%	

※ 消防職団員の出勤回数 863万2,180回 延べ3,891万189人（平成20年中）  
 ※ うち団員の出勤回数 58万9,514回 延べ1,030万6,338人（平成20年中）

4. 救急出場件数及び搬送人員

(平成20年中)

	平成20年中	前年比(件数)	前年比(%)	備 考
救急出場件数(件)	5,100,370	△ 193,033	△ 3.6%	うちヘリコプターによるものは3,276件（平成19年：3,167件）
搬送人員(人)	4,681,447	△ 224,138	△ 4.6%	うちヘリコプターによるものは2,811人（平成19年：2,832人）

※ 救急出場件数は、平成16年から連続して500万件超  
 ※ 6.2秒に1回の割合で出勤（前年6.0秒）、国民27人に1人が救急搬送（前年26人に1人）  
 ※ 現場到着まで平均7.7分（前年7.0分）



# 「南部火消し」の歴史と 伝統を受け継ぐ消防団



盛岡市消防団 団長 西村 紀昭

## 1. 盛岡市の紹介

盛岡市は、岩手県内陸部のほぼ中央に位置し、明治22（1889）年に全国31都市のひとつとして誕生して以来、岩手県の県庁所在地として発展を遂げ、現在は人口約30万人、面積886.47km<sup>2</sup>で、中核市の指定を受けています。

気候は、盆地特有の夏と冬、昼と夜の温度差が大きいのが特徴で、冬は氷点下10度以下になることもあります。特に玉山区薮川地区は、本州一の厳寒地として知られ、岩洞湖での「氷上わかさぎ釣り」には、毎年県内外から多くの釣り客が訪れます。

城下町としての趣、風情を残した町並みや、岩手山、姫神山などの秀峰を望み、北上川、



北上川と岩手山

中津川などの美しい清流が市中心部を流れる、豊かな自然と景観に恵まれたこの盛岡は、「み

ちのくの小京都」「杜と水の都」とも呼ばれ、特産品には「盛岡三大麺」（わんこそば、盛岡冷麺、じゃじゃ麺）や、「南部鉄器」「南部せんべい」などがあります。

歴史と風土に培われた伝統行事、民俗芸能も



盛岡さんさ踊り

多く、6月には「チャグチャグ馬コ」、8月には「盛岡さんさ踊り」「舟っこ流し」、9月には「盛岡秋まつり」などが行われます。

郷土の先人には、原敬、新渡戸稲造、米内光政、金田一京助、石川啄木らがいます。

## 2. 盛岡市消防団の沿革・概要

寛永18（1641）年1月、江戸京橋桶町から出火した大火の際、当時江戸屋敷で謹慎中の身であった南部藩主重直公は、あえて禁を犯して家臣とともに町に飛び出し、勇猛果敢な活躍でこの猛火を食い止めました。将軍徳川家光公は、この活躍を激賞して直ちに重直公の謹慎を解くと、恩赦に感激した重直公と家臣たちは、以後消防の任務を熱心に研究したそうです。その後も世界三大大火の一つに数えられる「明暦の大火」での活躍をはじめ、江戸における南部藩の消防の功績はめざましく、「火事と喧嘩は江戸の華」といわれた江戸で、「南部火消し」はその名声を大いに轟かせたと伝えられています。

盛岡の町火消の先駆けは、天明3（1783）年に創設された「いろは組」と「え組」で、文化10（1813）年の時点では、8組960人で組織されていたと記録にあります。その後、「町火消組」は明治10（1877）年に「消防組」に改称され、第二次大戦下の「警防団」と呼ばれた時代を経て、昭和22（1947）年4月30日に「盛岡市消防団」が14分団体制でスタートしました。

その後、盛岡市の発展とともに組織も拡大

し、現在では1本部、29分団（50部）で構成され、団員数は平成21年12月末日現在で、定数1,499人に対し実員1,259人（うち女性団員52人）、消防車両は、消防ポンプ車47台、水槽付ポンプ車1台、小型動力ポンプ付積載車30台を配備しています。

### 3. 盛岡市消防団の活動と特色

盛岡市消防団は、消防への限りない情熱と郷土愛、そして「自分たちの地域は自分たちで守る」という共通の理念を持って、日夜献身的に消防防災活動にあたることも



消防演習での一斉放水

に、『南部火消伝統保存会』を組織して、「山車運行」や「裸参り」「纏振り」「梯子乗り」といった「南部火消し」の伝統行事の保存、伝承活動にも精力的に取り組んでいます。

盛岡秋まつりでの「山車運行」は、実りの秋を彩る盛岡八幡宮例大祭の華であり、祭りの主役ともいえるべき豪華絢爛な“南部風流山車”の運行は、永く「南部火消し」たちによって担われてきました。市の無形民俗文化財にも指定されており、1台の山車に200人を超える引き手や笛、小太鼓、大太鼓等が参加し、例年7～10台の山車が3日間（9月14～16日）に渡り市内を練り歩きます。消防分団からは毎年5台前後の山車を運行していますが、昨年は「盛岡山車300年」、「盛岡市制120周年」の記念の年に当たり、消防分団の山車に加えて、『南部火消伝統保存会』の山車を



盛岡秋まつりでの山車運行

運行しました。山車の運行に併せて「纏振り」も披露し、盛岡秋まつりを大いに

盛り上げました。

正月の年中行事として行われている「裸参り」は、古くから消防分団が主体となり、地域の神社等市内6箇所において今日まで続けられてきました。“無病息災”や“五穀豊穡”“無火災”等を祈願し、さらしを巻いた裸衆がお参りするその光景は、盛岡市の新年を代表する風物詩として広く定着しています。



正月の裸参り

「纏振り」は、全分団が独自の纏を保有し、消防演習や火防祭などで、美しく打ち振る鮮やかな手並みを披露しています。

盛岡の「梯子乗り」は、今から270年程前の享保の時代に、時の盛岡藩主南部利雄公に加賀100万石藩主の姫君がお輿入れになる際に、加賀の国から同行してきた2人の鳶職人により伝えられたといわれています。古くから出初式や消防演習などで披露されてきた盛岡の「梯子乗り」は、しばらく途絶えた時期がありましたが、平成元年の盛岡市制100周年を記念して『南部火消伝統保存会』により復活し、現在は5つの分団で梯子を保有し、消防演習等でその妙技を披露しています。



梯子乗り

### 4. おわりに

これらの活動により、平成17年度に消防庁長官表彰「消防団地域活動表彰」を受賞しました。

歴史と伝統のある行事を通して、地域住民の防火意識の高揚に寄与し、また、人との交わりの中から消防団に対する理解を深めていただくことで、団員の確保にも繋げています。





## 「財政再建団体における 消防団の責務」



夕張市消防団 団長 小西 真三

### 1. 夕張市の紹介

夕張市は北海道のほぼ中央にあり、メロンで全国的に知られ、映画の町として世界的に知られ、面積は763.20km<sup>2</sup>。名前の由来はアイヌ語の「ユーパロ（鉱泉の湧き出るところ）」が転訛したものといわれています。山奥の谷間に市街地があり、かつて炭鉱の町として知られましたが、炭鉱閉山後人口減少に歯止めがかからず、現在の人口は、全国の市の中で少ないほうから3位の約11,400人（2009年10月末日現在）で、人口最盛期の10分の1となり、65歳以上の高齢化比率43%であります。サクラとツツジが市の木と花です。春「サクラ」、夏「メロン・スポーツ合宿」、秋「紅葉」、冬「スキー・映画祭」で四季を通じて楽しむことができます。

### 2. 財政再建団体以前と現状

平成2年3月、市内最後の炭鉱が閉山し、夕張市は、「炭鉱から観光」へのスローガンの下に、第3セクターを中心とした観光事業に力を注ぎ、炭鉱のテーマパーク、レースイスキー場など多数の観光スポットを造成したり、ゆうばり国際映画祭を開催したりと、地元雇用政策や交流人口政策を行いました。しかし、多種多様化する観光客のニーズに 대응することができなかったことや急激に減る人口と相まって、炭鉱の社会基盤整備の後処理が本市の財政に多大な債務を累積していきました。

平成19年3月6日、夕張市は総務大臣の同意を得、財政再建団体として353億円の借金返済を18年で完済する計画がスタートすることとなりました。

この間、消防関係においては、1本部1署1出張所1分遣所を1本部1署に統合し、職員数が49人から希望退職者を含め38人に減少しました（現在40人）。

また、消防団については、1本部13分団を、1本部8分団に統合し、条例定数を350人から260人に削減いたしました。



市長を囲む消防団幹部

しかしながら、消防組織の再編にありましては、署所の統合及び人員削減など、市民生活の安心安全を確保するうえで、住民に動揺や不安を与え、更には、市立総合病院の廃止もあり、「このマチはどうなってしまうのだろうか・・・住み続けることができるのだろうか」など、まさに未曾有の混乱に至ったところでありましたが、統合される分団区域



女性団員による高齢者住宅査察

住民への再三再四に亘る説明を行い、将来に亘り持続可能な消防組織の再編であるとの理解を得て、今日に至っております。

### 3. 夕張市消防団の活動

本市の消防の歴史は、明治30年7月に北海道炭砒鉄道会社が私立の消防組を創設したのがはじめてであり、明治35年11月に公設消防が発足しました。

団員の構成比率は50歳以上の団員の割合が44.24%（平成21年4月1日現在）と高齢化が著しい現状であり、このような高齢化や団員数の減少が、団の運営に影響を及ぼしており、適正な規模の活力ある消防団の確保をいかに図っていくかが、本市にとって切実な課題となっています。

また、このような高齢化に対応すべく、一般消防団員の退団年齢は65歳、消防団幹部の退団年齢を満70歳までとし、更に消防団幹部で、勤続年数が50年以上の者について「参与」を委嘱し、長年培った技術等を後世に伝えるため積極的に講習及び訓練等に参加できる環境作りを進めているところであります。

消防団の主な活動は、4月初旬に開催する分団長会議により、本年度の活動、訓練及び行事等を決定しております。1月は出初式に始まり、4月は春の火災予防週間における広報等、9月は全分団参加による消防団総合訓練、10月は秋の火災予防週間中に高齢者住宅



訓練風景

の特別査察、12月は歳末特別警戒を実施しています。特に、高齢化が著しい本市においては、高齢者住宅の特別査察を実施し、高齢者等を中心とする死者の発生を無くすことを主眼に住宅用火災警報器普及を含めて、最も力を入れているところであります。

### 4. おわりに

財政再建団体となり、全国各地からふるさと基金や消防資機材等ご支援やご協力を賜っておりますことは、枚挙するいとまがないほどであり、紙面をお借りし、あらためてお礼を申し上げます。

また、財政再建団体3年目を迎えた夕張市は、今年度、財政健全化法のもと、新たな財政再生計画を策定中ではありますが、そこに住み続ける住民がいる限り郷土愛護の精神により、不撓不屈の精神を捧げ「再生夕張」のため、団員と職員が一丸となり安心安全なまちづくりを行っていきたいと思います。

今、全国の自治体が困窮しているなか、夕張市の現状は将来の「日本の縮図」といっても過言ではありません。いかに、この苦しい再建団体のなかにあっても、夕張市民は北海道民であり、また、国民であるということを、十分認識し合い、その原点に立った消防団活動を行っていくことが責務と考えております。





## 「地域のための 消防団でありたい」



横手市大雄消防団 団長 佐々木 一義

### 1. 横手市の紹介

横手市は、平成17年10月1日に横手市、平鹿町、雄物川町、大森町、大雄村、山内村、十文字町、増田町の8市町村の合併により誕生しました。秋田県東南部に位置し、東の奥羽山脈、西の出羽丘陵に囲まれた横手盆地にあります。人口は約10万2千人で県内第2の都市になり、面積は693.60km<sup>2</sup>で秋田県の6.0%を占めています。2月に行われる「かまくら」が全国的に有名で、最近では、9月にB級ご当地グルメ日本一を決める「B-1グランプリ」が横手市で開催され、来場者数は26万7千人と多くの人でにぎわいました。ちなみに「横手やきそば」はゴールドグランプリを獲得しました。

大雄地域は、「あきたこまち」をはじめとする稲作が盛んで単位当りの収穫量は常に県内トップクラスであり、ビールの香りと苦みの原料となるホップは平成19年に生産量日本一となりました。

### 2. 横手市大雄消防団の概要

横手市では、市町村合併に伴い旧市町村ごとに8の消防団を設置し、横手市大雄消防団は、市町村合併前の旧大雄村一円をカバーしています。現在、3分団8部18班体制、定数234名、実員191名で構成され、装

備は消防広報車1台、小型ポンプ軽積載車1台、小型ポンプ18台を配備しています。

### 3. 横手市大雄消防団の活動

横手市大雄消防団では、1月の出初式を皮切りに、毎月7日を大雄防災の日とし消防器具の点検、副団長以上による軽積載車での防火巡回等を行っています。毎年2月に開催される幹部会議において、年間計画を決定し活動しています。



#### ○火災予防

4月 春の火災予防運動

11月 秋の火災予防運動

火災予防組合、消友会の参加協力のもと予防運動期間中、防火啓発等チラシを団員により全戸配布するとともに、火の元検査、防火パレード及び備品査察を実施しています。

## ○訓練

5月 大雄地区総合防災訓練

県民防災の日（26日）に合わせ小中学校を会場に、防災無線による広報訓練、避難訓練、初期消火訓練等を行い、中でも児童生徒を対象とした濃煙体験訓練は煙の怖さを実感できるため好評です。



6月 横手市水防訓練

水防技術の向上及び水防体制の強化等を図るため、大雄消防団は、毎年、秋田県に伝わる伝統工法「川倉工法」を実践しています。



7月 横手市大雄消防訓練大会

8月 横手市支部消防訓練大会

日頃の訓練の成果が問われる訓練大会では、「規律訓練」「小型ポンプ操法」を実施

し、支部大会、県大会出場を目指し、正確で俊敏な伝達、動作及び操法を繰り返し練習しています。



11月 駆付放水訓練

秋の火災予防運動期間中に、分団持ち回りで場所を決定し、サイレン（防災無線）吹鳴と同時に消防団及び分署が駆け付け、到着しだい放水を行います。二次想定では中継送水訓練を行い、連絡体制や消火活動の際の安全確保について確認しています。

## 4. おわりに

横手市大雄消防団は、それぞれの地域に密着した防火防災活動を展開していますが、当消防団も兼業農家や地域から離れた場所に職場を持つサラリーマンの増加等により団員確保が難しくなっており、そのような状況の中でも念願であった女性団員4名を採用することができました。活動は主に後方支援や火災予防広報ですが、女性ならではの細やかな配慮が期待されます。

「地域のための消防団でありたい」という気持ちを胸に、住民の生命、身体及び財産を災害から守るという大きな使命があるという原点を忘れずこれからも努力を重ねて参りたいと考えています。



## シンフォニー（鹿児島県）

### 「チャレンジ」

ゆふすい  
湧水町消防団 団員  
橋之口 理香

私たちの住む湧水町は、鹿児島県の中央北端に位置し、霧島連峰と九州山脈矢岳支脈の両山系に挟まれた火山灰土壌に覆われた盆地となっています。また、町の中央部を九州第二の河川、川内川が貫流しており、その流域は肥沃な耕地を形成しているほか、山麓には絶え間なく冷水が湧き出している湧水群があります。なかでも日本名水百選になっている丸池湧水や竹中池湧水の水量は豊富で、透明度も高く、訪れる人の心を癒してくれ、水道水としても町民の生活を支えています。豊かな大地と水に恵まれた美しい町です。

湧水町は、平成17年3月に栗野・吉松の2町が合併し、消防団も湧水町消防団として1団1部14分団の組織が誕生しました。女性団員は、合併前に栗野町で7名の本部付女性部として発足し、合併後は吉松地域からの女

性団員も増え、現在16名で活動しています。

当初、女性団員は、過疎化の進む本町で独居老人の訪問や広報活動等のソフト面での活動を目的に募集されましたが、現在はソフト面では、全団員が上級救命講習等も







積極的に受講し、又、ハード面では火災現場や災害時にも出動し、昨年度からは軽可搬ポンプ操法へも取り組む場を広げております。

いろいろな交流を通して、女性が現場に出ることについて賛否両論あることに気づきました。

湧水町は、最初にご紹介したとおり、山麓に囲まれ大きな川が町の真ん中を流れているため、過去大きな地震や、私が入団してからも、大雨で河川が増水し町の中心部のほとんどが床上・床下浸水するという大きな水害にもみまわれています。地理的にも比較的台風の上陸が多く、火災以外に自然災害での出動も多い地域です。

私は、大きな災害の現場を経験して、何より人手が多いに越したことはないと思うようになりました。最初は、何も出来ないかもしれないという気持ちもありましたが、行ってみれば意外とやれることが見つかるのだと気付きました。女性も人数がいれば重たいものも運べますし、こまかい事に気付いて動いているのは女性団員だと感じました。水害時のボランティアの方々の中にも、女性や子どもの姿が多くありまし

た。7月末の暑い時期、酷い臭いのする中で汗だくになって作業してくださいました。とても感謝しましたし勇気付けられるとともに、私にももっと出来ることがあるのではないかといい気持ちになりました。

火災の現場でも筒先こそ持ちませんが、ホース伸ばしや家財道具の持ち出しのような力仕事、交通整理や時にはご家族のケアなど、みんな自分が出来ることやっています。最初からできたわけではなく、何度も現場を経験し、少しずつ自分に出来ることが増えてきているのだと思います。

これからも様々な活動をする中で、女性団員特有の悩みは多くあると思いますが、消防団に入らなければ出会えなかった、パワフルで楽しいこのメンバーとなら、ソフト面ハード面という事にこだわらず、前向きにいろいろな事にチャレンジし、壁を乗り越えていけると思います。

そして私たちがチャレンジしていける環境を作ってくださいている、団幹部、町の職員、消防署の方々やその他多くの関係者の方々、何より家族に本当に感謝しています。



## シンフォニー（岡山県） 「みんなに親しまれる 女性消防団員として」

真庭市消防団 湯原方面隊 班長  
長須 久美子

岡山県真庭市は、岡山県北部中国山地のほぼ中央に位置しており、北は鳥取県に接し、東西に約30km、南北に約50km、総面積は約828km<sup>2</sup>で岡山県土の約11.6%を占め、県下でも最も広い面積をもっています。豊かな森林資源に合わせ、流域には美作三湯の一つで西の横綱といわれる「湯原温泉郷」、西日本一の名瀑「神庭の滝」などの観光資源があります。

真庭市消防団では、本部を中心に7つの方面隊があり、その内、女性消防団が所属する方面隊が2つ、活動はそれぞれの地域で行っています。最初に紹介する美甘方面隊は、団員数が現在5人。合併前の美甘村婦人消防隊には、80人程度が所属していましたが、真庭市合併と同時に解散。合併後もそのまま女性消防団員として活動を続けるように話し合いも持たれましたが、子育てや家事の仕事との両立など、生活スタイルの変化なども影響して、なかなか活動に参加できないという現状もあり、大半の人が辞めてしまったのです。それでも、残った5人の女性団員は、女性らしさを生かした取り組みをしようと、美甘保育園の子どもたちへの紙芝居や寸劇、独居老人宅を訪問して火事や事故などの防止の呼びかけを始めました。あれから4年、「企画や準備

などは大変ですが、子どもたちやおじいちゃんおばあちゃんが笑顔で迎えてくれるので、とても楽しみなんです。」と活動への手応えを感じています。





次に湯原方面隊ですが、平成3年に女性消防団として結成、現在の団員数は4人。内1名は入団当初からラッパ隊として活躍しており、男性団員を女性パワーでカバーしています。主な活動は美甘方面隊に準じた内容とは他に、全国火災予防運動期間中には、消防自動車に乗り、防火パレードの放送をしています。生放送のおかげか、家の前で子どもたちが手を振ってくれたり、声をかけてくれるのはとても励みになります。

す。

女性団員のやわらかい雰囲気は、訪問される側にとっても和やかな印象を与え会話も弾むようです。こうした、私たち女性にしかできない消防団業務を広く市内全域に向けて活動していくために女性消防団員が増えていくことを願うばかりです。

これからも、みんなに親しまれる女性消防団員として、防火・防災の普及啓発のため、一生懸命活動していきたいと思います。



# 第19回全国女性消防操法大会に優勝して

岐阜県羽島市女性消防隊 隊長 渡辺 五月



## 1 羽島市の紹介

初めに私達の住んでいる羽島市について紹介いたします。

羽島市は、岐阜県の南部に位置し、東は木曽川、西は長良川に囲まれています。古くは伊勢湾に続く海の中にあり、その後の地殻変動により現在の形になりました。この一帯は低地で、木曽三川の氾濫により洪水に悩まされ続けました。そのため、江戸時代の宝暦年間（1751年～1764年）には幕府の命令により、薩摩義士の手によって三川分流工事が行われました。この工事以後、この地は豊かな穀倉地帯に変わり、明治以降も農産物や美濃織の集散地として発展してきました。昭和29年4月1日、当時の羽島郡南部の1町9か村が合併して、県下9番目の市として羽島市が誕生しました。現在は、新幹線岐阜羽島駅と名神高速道路岐阜羽島インターチェンジがある高速交通網の拠点として成長を続けています。

自立した羽島市の構築と将来都市像である「ともにつくる、明日につながる 元気なまち・羽島」の実現を目指し取り組んでいます。

## 2 羽島市女性消防隊の発足

平成21年2月1日から3月31日まで羽島市内に居住または勤務している18歳以上の女性を対象に、隊員またはチーム等を募集

しました。「あなたのクラブ・チーム・友達と一緒に全国女性消防操法大会へ行きませんか。」をスローガンに募集したところ、意欲的に応募された中から6名のチームが選出され、平成21年4月1日に羽島市女性消防隊として発足しました。全員同じスポーツジムに勤務する気心も知れた仲間なので、きっと大会までの約7ヶ月間頑張って乗り切ってくれると確信しました。

## 3 消防操法大会への取り組み

岐阜県は前回出場した恵那市女性消防隊が優勝しており、岐阜県勢として連覇が期待され、そのプレッシャーとも戦いながらの訓練は、見た目以上に大変なものでした。

隊員は、操法訓練とは部活動の延長のようなものと甘く考えていたらしく、初めて行う「気を付け」、「右向けー右」、「回れー右」といった規律訓練には戸惑ったようでした。しかし、隊員の中には初めて触れる消防ホースでしたが、最初から器用に真直ぐ展長した時は、指導員共々びっくりしました。

4月と5月では計6回しか訓練が出来ず、隊員だけでなく指導員もこの少ない訓練日数では、残り期間を考えると余りにも短いので隊員共々話し合い、6月の

後半から回数を増やし日曜日も訓練することにしました。しかし、日曜日は勤務日のため同僚に無理を言い、勤務時間をやり繰りし交替してもらうなど苦労したようです。隊員達は、会社に申し出れば優遇されるのですが、私的な活動としてやり遂げたいとの強い信念を貫き通したとの事でした。大会までの訓練回数は、39回と少ないのですが、その中身は大変濃かったと思います。

前回優勝の岐阜県恵那市女性消防隊の皆様には大変お世話になりました。5月には視察させて欲しいという申し出にも快諾して頂きました。今でも訓練を続けているその操法は、流石に素晴らしいものであり、隊員達だけでなく指導員達もただ感嘆するばかりで、帰ってから何回もビデオを見て勉強しました。また、大会でも遠路応援に駆け付けて下さり大声援を送って頂いたことには大変感謝しております。

羽島市女性消防隊として操法を初披露する予定だった、「消防感謝祭」岐阜県消防操法大会が、当日県内各地で大雨警報や注意報が発令され、すでに土砂崩れなどの被害が発生していたため中止となり、大勢の前で実施していない不安が募りました。しかし、9月下旬から激励会などが3回開催され、大勢の前でも怖れず臆せず普段通りの出来栄だったので、ひょっとすると本番でもこの調子で実施してくれたら良いなあ、という期待をちょっぴり抱きました。

4月から女性防火クラブ員がサポートしていたのですが、地元羽島市消防団の方達も激励に来て頂きました。流石に消防団員のホース巻きはてきぱきしており、何回も集中してホース展長が出来るので非常に助

かりました。

後日ですが、「限られた時間（週1回、2時間）しか訓練ができないことや、補欠隊員がいない等により、隊員同士でお互いに話し合い訓練時には集中して取り組んだ。訓練日ではない日にはモチベーションを高めるため、各自でイメージトレーニングを行い、全員が体調面に気遣いながら体のケアには特に注意をした。また、休憩時間を利用して規律訓練を行っていた。」と聞き、隊員達に大変な思いをさせました。

10月に入ると、私は日本消防協会から開会式における選手宣誓について依頼されておりましたので、全隊員を代表して行うことを思うと操法とは別にすごく緊張してきました。訓練の時に指導員等に聞いて頂くなど、繰り返し何度も練習しましたが…。

#### 4 全国大会への出場

大会前日の朝、羽島市長へ出発する報告をし、新幹線に乗り込みました。本会場に到着し、練習会場では早速練習を始めましたが、岐阜県が前回優勝したこともあり、他のコースで練習していた隊員達が一旦練習を中止し、私達の操法を見学していました。私は開会式リハーサルで選手宣誓をしましたが、大変立派な会場なので度肝を抜かれました。

大会当日は予定より早く起床し、7時半には会場に到着しました。また、応援隊も当日の深夜の1時に羽島市消防本部を出発し会場で合流しました。

いよいよ開会式の時間となり、ここで私がぼっち決めないと、隊員達に変な気を使わせてしまうと思い、入場行進では「堂々とした態度」、選手宣誓では「ゆっく

りと正確に」を心掛けました。何とか無難にまとめ、あとは操法だけ。

第2コース4番目が羽島市女性消防隊の出場であり、出場する時刻に近づいてくると隊員だけでなく指導員も日頃とは違い緊張しているのが分かり、私も選手宣誓の時以上に緊張してきました。「操作始め」から標的を落とすまで、期待と不安で今に

も心臓が飛び出るくらいでしたが、戻ってきた隊員達は「やったー」の声とVサインして笑顔で戻って来てくれました。岐阜県羽島市女性消防隊のタイム51.62秒、総合得点91点との会場アナウンスに隊員、指導員だけでなく応援に来て頂いた全員が「やったー、優勝やー。」という言葉と喝采が自然に沸き起こりました。



出場



操法開始



放水開始



優勝の瞬間

## 5 終わりに

隊員達に難しかった点を聞きましたら、皆何もかも難しく、特に一瞬のミスが全体に大きく影響するため、その責任がプレッシャーになり落ち込んだことも度々あったとのことでした。大会までの期間を通じて学んだものは、隊員の気持ちが一つになり、

結果として最高の形となった事がこの上ない喜びでした。この「優勝」という栄誉を獲得するには、隊員達の努力は言うまでもなく指導員等関係各位、そして何よりも家族の理解と協力がなければ成し遂げられません。この7ヶ月間は私の人生で最高に輝いたものであり、最高の喜びを隊員から頂



くことが出来ました。

この教訓を活かし、羽島市女性防火クラブ連絡協議会として消防に対する知識を習得するとともに、家庭における火災予防に

努め、社会公共の福祉の増進を図りたいと思います。皆様、本当にありがとうございました。



岐阜県知事へ優勝報告



# 防災一人語りで入団促進

矢口消防団（東京都大田区） 団長 若林 登

矢口消防団は、若林登消防団長を中心として、消防団員の入団促進活動を積極的に展開しています。定員270名のところ現在251名（93%）で、早期の100%充足を目指しています。

その活動の一環として昨年11月13日（金）、矢口消防署との共催で防火のつどい2009を開催し、女優の三咲順子さんによる防災一人語り四部作から第4部「写真」を上演しました。



「みなさん、こんにちは。私は、つい最近、消防団員になりました。実は、娘のみゆきも消防団員だったんです。そして2人とも、このショパンの曲が大好きでした。」という出だいで、親子の女性消防団員を主人公とした物語が始まります。

社会への貢献を消防団活動によって実

現しようとする熱い思いが、三咲さんの声色をたくみに使い分けた一人語りとピアノ演奏で観客の皆さんに伝わり、「一人語りの中に引き込まれるような感じになり、とても良かった」、「芸術性が高く、心に残ります」など、大変好評でした。

これを受けて、本年2月24日（水）には、宇都宮市消防本部協力の防災講演会（栃木県総合文化センター）で「写真」が再演される予定です。

今回の防災一人語り第4部「写真」の脚本は、池田和生さん（前・臨港消防署長）と東出夕美子さん（矢口消防署員）が共同執筆しました。また、池田和生さん作詞、三咲順子さん作曲・歌による、住宅用火災警報器の設置促進ソング「うちのU F O 住警器」が、矢口消防署のホームページで公開されています。

矢口消防団、防災一人語り四部作、「うちのU F O 住警器」などの情報は、矢口消防署のホームページをご覧ください。



# 平成21年度消防防災機器の開発・改良、消防防災科学論文及び原因調査事例報告に関する消防庁長官表彰

総務省消防庁 消防研究センター

平成21年度消防防災機器の開発・改良、消防防災科学論文及び原因調査事例報告に関する消防庁長官表彰式が、去る平成21年11月26日（木）にニッショーホールにおいて、第57回全国消防技術者会議と時を同じくして挙行されました（写真1）。

本表彰制度は、消防科学・技術の高度化と消防防災活動の活性化に資することを目的として、平成9年度から実施されているもので、今回で13回目となります。

今回から、従来の消防防災機器の優れた開発・改良及び消防防災科学に関する優れた論文に加えて、優れた原因調査事例報告についても消防庁長官表彰の対象とすることとなりました。

平成21年度は、全国の消防機関、消防機器メーカー等から総計78編（消防防災機器の開発・改良45編、消防科学論文15編、原因調査事例報告18編）の応募があり、選考委員会（委員長：亀井浅道横浜国立大学教授）による厳正な審査の結果、21の受賞作品（優秀賞：19編、奨励賞：2編）が決定されました（表1）。

今回も消防職団員や一般の方々から、創意工夫された作品や未開拓の分野の実験や考察が重ねられた論文、そして、緻密な原因調査の結果が数多く寄せられました。優秀賞を受賞した作品は、水を利用した消火器放射訓練において正しい放水位置を身につけることが



写真1 表彰者一同の記念撮影

できるよう工夫するとともに次の訓練までに自動で元の状態に戻るよう工夫した「消火器放射訓練用標的器」（写真2）、材質の異なる3種類の畳の燃焼実験によって燃焼挙動を確認するとともに、水及び消火剤の種類による浸透性を比較して、畳の火災において必要な措置を示した論文である「畳の燃焼形態及び水の浸透性について」及びガスヒーターエアコン室外機等が焼損した火災の出火原因として、最も焼損の著しいエアコン室外機ではなく焼損のないセンサーライトと特定した「ガスヒーターエアコンの鑑識とセンサーライトの出火再現実験について」等です。奨励賞を受賞した作品は、災害出場の際に狭い路地へ迅速に到達して初期消火を円滑に行うために、三輪自転車を改造して資機材を積載できるようにした「消防三輪自転車の開発」（写真3）等です。

なお、作品の詳細は、消防研究センターホームページ（<http://www.fri.go.jp/>）及び消防庁ホームページ（<http://www.fdma.go.jp/>）に掲載しています。

また、平成22年度の商品募集は、平成22年3月から開始する予定です。



写真2 消火器放射訓練用標的器（優秀賞）



写真3 消防三輪自転車（奨励賞）

表1 平成21年表彰作品一覧

●優秀賞（19編）

○消防職員・消防団員等による消防防災機器の開発・改良

- ・消火器放射訓練用標的器  
佐藤恭久（上山市消防本部）
- ・A E D用絶縁プライバシーシートの開発  
安田英樹（東近江行政組合消防本部）
- ・防火水槽耐震補強（リニューアル）工法  
新聞 実、太田弘章（堺市消防局）、古谷全邦（堺市建設局）
- ・コンパクト型 膿盆「NO盆」の開発  
平岩弘次、濱岡洋平（呉市消防局）
- ・リンク機構式マルチ器具の開発  
藤居隆治（愛知郡広域行政組合消防本部）

○消防職員・消防団員等による消防防災科学論文の部

- ・量の燃焼形態及び水の浸透性について  
永友義夫、天野和宏、宮本義也（北九州市消防局）
- ・観光ガイドによる文化財の震災対策について  
谷村良明、渡辺隆司（京都市消防局南消防署）
- ・救急活動における接遇についての一考察  
森岡一樹、森口直人、西村伸行、小堀太香揮、山本祥司（京都市消防局伏見消防署）

○消防職員による原因調査事例報告の部

- ・低圧進相コンデンサ火災の原因判定に関する一考察  
高井伸一、大木伸一（大阪市消防局）
- ・リチウムポリマー電池から出火した火災の調査活動  
山本忠昭、柏原隆志（神戸市消防局）
- ・保税蔵置中のコンテナ火災の調査について  
後藤恒雄（大分市消防局）
- ・配線からの出火事例の調査について  
松田悟志（姫路市消防局）
- ・ガスヒーターエアコンの鑑識とセンサーライトの出火再現実験について  
伏見栄浩（新潟市消防局）
- ・煙草によるトラックの吸気系統からの出火の調査について  
桑原輝之（浜松市消防局）

○一般による消防防災機器の開発・改良の部

- ・携帯型端末機による防災教育用ゲーム「地震D S 72時間」の開発  
藤岡正樹（株式会社イオタ）
- ・エゼクタを用いた消防車用呼び水装置の開発  
廖 赤虹、近藤伸一、川東 誉、山野光一、筒井洋一郎（株式会社モリタホールディングス）
- ・瓦礫重量物をこじ開けながら移動するジャッキアップ移動式探査機：Bari-bari-IV  
塚越秀行、古知屋琢己、北川 能（東京工業大学）

○一般による消防防災科学論文の部

- ・救急活動時の身体負担の検討と負担軽減の方策について一ボディメカニクスの検討一  
安田康晴（京都橘大学）
- ・投てき型消火器具用消火剤に関する実験的研究  
小柴佑介、大谷英雄（横浜国立大学）

●奨励賞（2編）

- ・消防三輪自転車の開発  
福田清一（尾久消防団）
- ・身体装着型シューズカバーケースの考案  
石井克彦、渡邊英則、伊藤太一（可茂消防事務組合消防本部）

# 消防団の広場

高知県

## 「消防団員を確保せよ!!」

香南市野市消防団  
団長

宮本 慶澄



「ん、あの若者は誰だ？」ある日、団員が自宅の前をバイクで走り去る若者を見て、近くにいた近所の主婦に尋ねると「あの子は〇〇さんちの息子さんですよ。」と教えられたそうです。地域の情報は大概掌握しているつもりでしたが、団員でもまだまだ知らないことはたくさんありそうです。

こんなことがあり「この未知なる情報を、現在、高知県が推進している消防団員の定数確保事業に有効に活用できないか？」と思い消防団幹部会や消防本部に問いかけその結果、高知県や高知県消防協会の協力も得て、香南市消防団員定数確保推進委員会を立ち上げ、総勢14名の方々に消防団員定数確保推進委員を引き受けていただき活動を開始しました。推進委員の情報力を活かし、

たくさんの情報が入るようになりました。同時に人材の情報だけでなく一緒に勧誘に出向いて、消防団の活動内容や実情を本人はもとより家族や職場の方々にも丁寧に説明していただき周りの方々の理解も深めてもらっています。

そんな活動の効果も現れはじめ団員も若干ですが増加してきています。

この活動は「消防団員の確保」ということだけでなく「広く市民に消防団に対する認識を深める」とともに、「地域住民の防災意識の向上」また「地域のコミュニティの回復」につながる有効な活動だと思っています。今後もこの活動を通じ団員の確保はもちろんのこと、地域の安心安全の確保に努めて行きたいと思っています。





うちの

# 名物団員



鹿  
児  
島  
県



奄美市消防団 名瀬東部方面隊  
上方(かみほう)分団 班長

**福井 慥(さとし)**

福井班長は養豚業を営む傍ら「消防団のエンターテイナー」という異名を持ち、福祉施設などを慰問しお年

寄りからも大変喜ばれています。

12年ほど前、地域行事の余興で女装して歌を歌ったところ、それが評判となり、それ以来、誕生会、クリスマス会等に声がかかるようになりました。衣装、かつら、化粧品もすべて自前でそろえ演出も本格的。美空ひばりや都はるみの歌が得意とか。歌もさることながら、身振り、手振りがすっかり女性らしく成長した？福井班長の「自分が楽しくならないと、相手には伝わらない」と語るその笑顔に、なんとも親しみやすい人柄がにじみ出ています。



岡  
山  
県



真庭市消防団 副団長

**川上 定男**

真庭市消防団で副団長として活躍している川上副団長を紹介します。真庭市は岡山県下でも最も面積の広い市です。また、団員も県

下でも2番目に多い消防団です。

その中で、川上副団長は、岡山県高野連の審判長と消防団の副団長を両立させてやってのけています。

春夏秋は高校野球の審判に消防団活動にと頑張っております。また、冬はスキーのインストラクターまでやってのける、パワフルな副団長です。また、団員も2,698人と、大変大勢の団員ですが、団長の片腕となって団員を纏め、地域を大切に消防団活動をしています。

秋  
田  
県



横手市大雄消防団第1分団  
副分団長

**小松田 満**

平成5年1月1日入団以来、現在、消防副分団長として活躍しています。消防団員として地域の防火活動に努めるかたわら交通指導

隊員として交通安全にも尽力しています。

そのほかには、消防団で培った指導力をかわれ地元の小学校のスポーツ少年団の野球のコーチを引き受け、自身もクラブチームに所属し奮闘中です。また、横手の夏の風物詩のひとつである送り盆まつりでは太鼓の名手としてなくてはならない存在となっています。

人情に厚く、まっすぐな性格から、幹部や他の団員からからも信頼されその風貌から「ひげの副分団長」として親しまれています。

北  
海  
道



北見地区消防組合北見消防団  
零分団 部長

**村瀬 信一**

北見消防団には「零分団」という分団があります。「零分団」名前の由来は「災害ゼロを目指す」をコンセプトに名付けられました。

この零分団に所属する村瀬部長は、阪神淡路大震災で消防団の必要性を実感し、また管轄区域で発生した長期にわたる大規模断水を機に、災害図上訓練「DIG」ファシリテーターとして町内会組織または近隣市町村へ出向き、「DIG」の普及活動と自助・共助の大切さ、および消防団の必要性を積極的にPRしています。

これからも、過去の教訓を参考として、地域の方々に「防災から学べる街づくり」に生かせるよう更なるスキルアップを目指しております。



平成21年度 全国統一防火標語

「消えるまで ゆっくり火の元 ならめっ子」

## 2月の日本消防協会関係行事

2月4日(木)	都道府県事務局長会議
2月10日(水) 午前	日本消防協会役員会議(正副会長会議、理事会、代議員会) 全日本消防人共済会役員会議(理事会、総代会)
2月10日(水) 午後	第62回日本消防協会定例表彰式
2月17日(水)～19日(金)	第9回消防団幹部候補中央特別研修(男性の部)
2月22日(月)～24日(水)	第9回消防団幹部候補中央特別研修(女性の部)
2月25日(木)	消防育英会役員会

## 編集後記

新年 あけましておめでとうございます。

旧年中は、機関誌「日本消防」をご愛読いただきましてありがとうございました。本年もお役に立てる情報を提供できるよう努力して参りますので、よろしく願いいたします。

さて、新しい年を迎え災害の無い平穏な一年であることを願い、全国各地では恒例の消防出初式が開催されています。早速、私も東京消防出初式を見学しましたが、見学者席は満員、分列行進、はしごのり、消防演技、一斉放水と、どれもがスケールの大きさと内容の充実に感心したところですが、みなさまも機会があれば、是非一度は東京の出初式をご覧になるのもよろしいかと思います。

今月号は、昨年11月に行われました第19回全国女性消防操法大会で見事に優勝されました岐阜県羽島市女性消防隊の優勝までの操法に対する取組等を掲載しております。これから全国大会での優勝を目標としている消防隊の参考にされてはと思います。

昨年も、豪雨、山火事等災害が各地で多発しましたが、今年は災害のない年でありますよう心からお祈りいたします。春の足音が聞こえてくるまでには、もう少し間がありますが、消防団員のみならず、健康にご留意され今年も地域住民の安心、安全を守り活動に従事して下さいますようお願いいたします。

(M・S)

## 寄稿のお願い

皆さまの消防団活動への取り組み、ご意見などをもとに、より充実した有意義なものにしていきたく考えておりますので、多数のご寄稿をお待ちしています。

Eメールでも受付しています。

soumu@nissho.or.jp

月刊「日本消防」第六十三巻第一号  
平成二十二年一月五日印刷  
平成二十二年一月十日発行

編集人 岩田知也  
発行所 財団法人日本消防協会

印刷所 東京都港区虎ノ門二一九一十六  
電話 〇三(303)一四八一(代)

印刷所 東京都千代田区外神田六―三―三  
日本印刷株式会社  
電話(383)六九七一(代)

# 消防人の火災共済の補償が増額されました 「1000倍補償を1500倍補償にUP」

## B型火災共済 (加入口数は5口から25口まで)

10口の場合 掛金1000円で  
火災共済金 100万円を150万円に増額しました。  
風水雪害等共済金(全損で) 20万円を30万円に増額しました。  
『掛金は、500円～2,500円(500円単位)で加入できます。』

## C型火災共済 『加入口数は、最高200口』

火災共済金 2,000万円を3,000万円に増額しました。  
風水雪害等共済金(全損で) 400万円を600万円に増額しました。  
※ 風水雪害等共済金とは、これまで災害見舞金としてお支払いしていたものです  
※ 加入にあたり、組合員となっていたために入会費が必要になります。



### 生活協同組合 全日本消防人共済会

事務局 (財)日本消防協会内 支部 都道府県消防協会内

## 消防互助年金

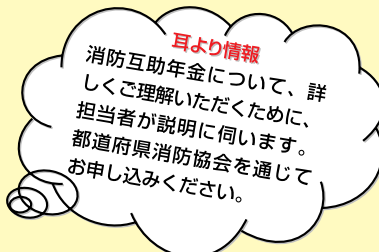
### 『消防の仲間が支える互助年金』

消防互助年金制度は、(財)日本消防協会が消防職団員等の安定した老後の生活と福祉の向上のために第一生命保険相互会社と締結している拠出型企業年金制度です

ホームページでも詳しく紹介しています



「互助マル君」



**耳より情報**  
消防互助年金について、詳しくご理解いただくために、担当者が説明に伺います。都道府県消防協会を通じてお申し込みください。

加入申込みは消防事務担当へ

問合せ先

- 各市町村の消防事務担当係
- 都道府県消防協会

(日本消防協会ホームページ)

- (財)日本消防協会 年金共済部
- 生活協同組合全日本消防人共済会  
〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-9-16  
日本消防会館 TEL.(03)3503-1481~5  
<http://www.nissho.or.jp>